



イラク復興支援活動行動史

第 2 編



陸 上 幕 僚 監 部

平成20年5月

分類番号：W - W3 - W39

平成21年12月31日まで保存

は し が き

1 目的及び記述範囲

(1) 目 的

本行動史は、「イラクにおける人道復興支援活動及び安全確保支援活動の実施に関する特別措置法（平成15年法律第137号）」に基づき派遣されたイラク復興支援群等の活動について、陸上幕僚監部以下の国際平和協力活動業務及び教育訓練の担当者を対象として、各種研究、教育訓練の資として編さんした「イラク人道復興支援行動史」の第2編であり、方面隊以下における各機能別の部隊の活動状況及び教訓・提言等について記述したものである。なお、第1編は、陸上幕僚監部が実施した施策について編さんしたものである。

(2) 記述範囲

本行動史の編さんに当たっては、イラク復興支援群等による派遣準備、イラクにおける復興支援活動及びイラク後送業務隊による撤収活動について記述した。

2 記述上の留意事項

(1) 時期区分

ア 派遣準備

派遣準備開始から本邦を出国するまで

イ 復興支援活動

慣熟訓練を実施したクウェート（キャンプバージニア）到着から任務終了に伴う本邦への帰国（編成解組）まで

ウ 撤 収

イラク後送業務隊の活動開始から任務終了に伴う本邦への帰国（編成解組）まで

(2) 統制事項

ア 使用する時間

（ア）現地時間を基本

（イ）日本時間が必要な場合は、（ ）書きで併記

イ 年 号

西暦で記述

(3) 該当部隊

本文の各文末に該当部隊を【 】で記載

3 使用上の注意事項

(1) 本行動史の編さんに当たっては、各種基礎資料に基づき努めて原文のまま記述したが、文意をわかりやすくするため一部修正して記述した。

(2) 本行動史は、当該事務に関与する者が、その参考として使用するものとする。

目 次

第1章 総 説

第1節 全 般	6
1 陸上自衛隊の部隊による活動	6
2 ムサンナ県の復興の進展状況	6
3 オランダ軍、英国軍及びオーストラリア軍との連携	6
第2節 イラク復興支援活動の経緯	
1 第1次群	6
2 第2次群	7
3 第3次群	8
4 第4次群	10
5 第5次群	11
6 第6次群	12
7 第7次群	13
8 第8次群	15
9 第9次群	16
10 第10次群	17
11 イラク後送業務隊	18
第3節 歴代イラク復興支援群長、歴代イラク復興業務支援隊長及び イラク後送業務隊長	
1 歴代イラク復興支援群長	20
2 歴代イラク復興業務支援隊長	20
3 イラク後送業務隊長	20

第2章 派遣準備

第1節 全 般	22
第2節 各機能別の部隊の活動状況及び教訓・提言等	
1 人 事	22
2 衛生・メンタルヘルス	24
3 会 計	28
4 広 報	28
5 情 報	29
6 兵 站	42
7 教育訓練	46

第3章 復興支援活動

第1節 全 般 61

第2節 各機能別の部隊の活動状況及び教訓・提言等

1 人 事	65
2 警 務	69
3 衛生・メンタルヘルス	73
4 会 計	83
5 広 報	87
6 民 事	91
7 法 務	93
8 情 報	95
9 通 信	101
10 兵 站	109
11 運 用	115
12 教育訓練	129
13 監 察	135
14 教訓業務	137

第4章 撤収

第1節 全 般 150

第2節 各機能別の部隊の活動状況及び教訓・提言等

1 人 事	157
2 衛 生	159
3 会 計	161
4 広 報	163
5 法 務	167
6 情 報	169
7 通 信	173
8 兵 站	176
9 教育訓練	199
10 接 遇	201
11 撤収業務の参考	203

巻頭言・・・「ロバか、ライオンか。」

第1次イラク復興支援群長
番匠幸一郎

旭川の第2師団司令部に「対応措置検討準備室」が設置され、部隊としてのイラク派遣の準備が本格化したのは、2003年10月のことだった。あらゆる分野で知見も情報も少ない中で、いかに短期間に有形無形の様々な準備を完璧し、現地へ展開して任務を開始するか。いわば、コースもゴールも良く見えないが、やるしかない。とにかくスタートラインに着いて走り出そう。皆そういう意識だった。

第1次群は、2004年1月16日の先遣隊出国、2月1日の隊旗授与式以降、2月上旬から3月下旬にかけて逐次現地に展開し、サマーワでの人道復興支援活動を開始した。第1次群は5月26日をもって第2次群に指揮を転移したが、その後、2006年7月、第10次群が全ての任務を完了し帰国するまでの約2年半にわたり、全方面隊からの約5500名の隊員がこの任務に従事し、全員が無事に任務を完了できたことは、陸上自衛隊の歴史に新たなページを刻んだと思う。



イラクに最初に掲げた国旗(2004年2月28日)

今般、研究本部によってイラク派遣の「行動史」が編さんされ、その全容を記録し、分析・評価して頂けることは、今時任務に携わった者として誠に欣快にたえない。そこで、その刊行にあたり、感謝と自戒を込めて若干の管見を申し上げたい。

その第1は、「イラク人道復興支援活動は、純然たる軍事作戦であった。」ということである。隊旗授与式において、小泉総理は「自衛隊の諸君にしかできない任務」と訓示された。派遣準備から、イラクへの展開、指揮・幕僚活動、人事、情報、兵站、復興支援活動、広報・対外連絡調整、撤収まで、振り返ってみれば、イラク派遣は、派遣部隊と本国の陸幕・関係機関・部隊等、国家と陸上自衛隊の総力をあげて行われた、本当の軍事作戦であり、我々が平素から訓練を重ね本業としている軍事組織としての真価を問われた任務だったと思う。

私はサマーワで、隊員たちによく「ロバとライオン」の例え話をした。我々の任務は、戦闘を主体とするものではないし、人道復興支援は一見非軍事の、軍事組織でなくても実施できる「ロバ」の仕事のように思えるかもしれない。では、なぜ「ライオン」である陸上自衛隊がこの仕事をするのか。それは、イラクでは「ライオン」の構えと能力があるからこそ「ロバ」の仕事ができるのであって、その逆はないからだ。我々が、当初から派遣計画を「全般作戦計画」とし、日々の会合も「作戦会議」としたのは、そのためである。

今時任務は、軍事組織による軍事作戦そのものであることを再認識させられる機会であった。

第2は、「平素からの当たり前のことの大切さ」である。

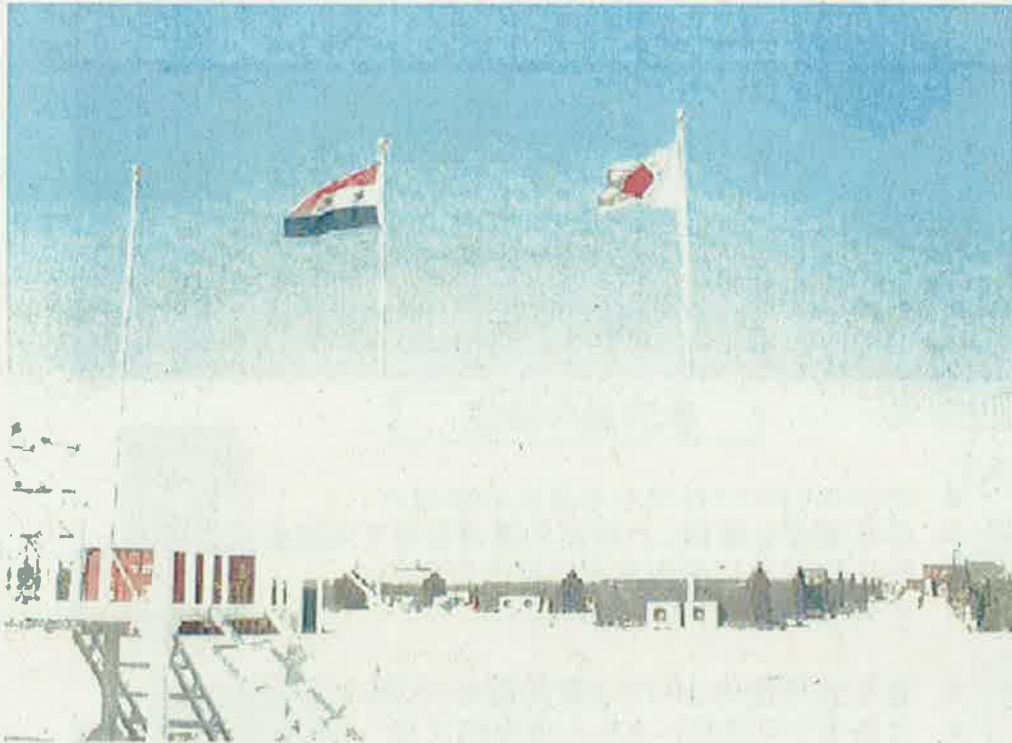
私は、イラクにおいて特別なことをしているという意識はほとんどなかった。むしろ、全てが、入隊以来、陸上自衛隊として教えられて来たことの延長線上にあると感じていた。団結・規律・士気の大切さ、妥協のない厳しく確実な訓練の反復、指揮の要訣と幕僚活動の徹底、基本的行動・基礎動作の確行、また、親身の服務指導、家族や部外関連の理解・協力の重要性等、イラクの現場の全ては、国内で日々当たり前のように言われて来た、隊務や訓練を通じて築かれた部隊の実力そのものが試される世界であったと思う。ただし、そこは「筈（はず）」とか、訓練だからという「甘え」が許されない、本物でなければ通用しない、非常に厳しく現実的な世界でもあった。旧軍時代から警察予備隊の創隊を経て、現在の陸上自衛隊を築いて来られた先輩方が、黙々とそして着実に我々に伝えてくださった「当たり前のこと」こそが、最も大切であるということを実感した。

第3は、今時任務を「成功体験にしてはならない」ということである。

今回のイラク派遣を通じ、全ての関係者がそれぞれの立場で考え、悩み、試行錯誤し、決断し、工夫し、実行して来たことは、その過程も結果も全てが陸上自衛隊の努力の結晶であり「宝の山」だと思う。しかし、イラク派遣はあくまでイラク派遣であり、今回通用したから、その成果や教訓が今後の国際任務に常に適用できるとは断言できないだろう。むしろ将来、今回のイラク派遣を振り返った時、我々がいかに幸運に恵まれ、その任務が非常にプリミティブなものであったかを感じるかも知れない。我々は、情勢や戦闘様相の変化、そして、その時点での国家の要請に柔軟に対応し、いつどこでいかなる任務を与えられようとも、これを確実に完遂していかなければならない。だからこそ、今回のイラク派遣での結果をステレオタイプの成功体験としてしまったり、金科玉条の教訓として拘泥してはならないと思う。イラク派遣から何を学び、実は何を反省しなければならないか、我々は新たな任務の都度そのことを考えなければならないと思う。

私は今回のイラク派遣が、陸上自衛隊の創隊以来培われてきた訓練や隊務の積み重ねの成果であるとともに、これまでの累次の国際貢献を通じて得られた貴重な教訓の上に成り立っていることを実感する。あわせて、我々が旭川で派遣準備を始めた当初から、現地における活動の終始を通じ、教訓収集チームの専門家が常に我々とともに現場に在ってリアルタイムで状況を把握するとともに、研究本部が総力を挙げて、我々の行っていることの全てを客観的な目で記録・分析して頂いたことに感謝したい。8000キロ離れたサマーワでの活動の実態と教訓が、直ちに全国の部隊等まで共有され、今後の任務に反映されるシステムを作って頂けたこと、そして、今回こうして「行動史」が刊行されることは、陸上自衛隊にとって極めて大きな意義があると思う。イラク派遣に携わった者の一人として心から御礼申し上げますとともに、本「行動史」が、陸上自衛隊の今後の任務遂行という、新たな航海にとっての灯台となることを願ってやまない。

第1章 総説



イラク派遣の経緯

年次	15年				16年				17年				18年			
月	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
派遣経緯/イラク派遣の経緯	5/1 駐米大使館 5/13 安倍首相演説 1483号	7/13 駐米大使館 8/1 安倍首相演説 151号	12/3 大統領 12/11 安倍首相演説 154号		5/1 駐米大使館 5/13 安倍首相演説 1544号			1/20 イラク国境 監視開始	4/26 イラク国境 監視開始	8/18 イラク国境 監視開始	12/19 国境監視 開始		8/20 国境監視 開始	6/1 ムサタリフ 治安監視開始		
国内		7/28 イラク特遣 部隊派遣	12/1 基本計画 閣議決定		8/16 基本計画 決定		12/1 基本計画 決定				12/1 基本計画 決定	3/27 政府決定 部隊派遣	6/2 政府決定 部隊派遣	8/3 政府決定 部隊派遣		
派遣		9/1 政府 閣議決定	11/19 大使館襲撃 チーム	2/3 1次群	5/27 2次群	8/3 3次群	12/1 4次群	2/26 5次群	5/28 6次群	8/18 7次群	11/12 8次群	2/18 9次群	5/27 10次群	7/25 10次群		
				魚支隊(1次)		魚支隊(2次)		魚支隊(3次)		魚支隊(4次)		魚支隊(5次)				
事案			11/29 日本大使館襲撃 事件		8/7-21 ロケット攻撃 事件	8/10-21 ロケット攻撃 事件	8/22-31 ロケット攻撃 事件	1/11 ロケット攻撃 事件		7/4 ロケット攻撃 事件	11/7 ロケット攻撃 事件		3/29 ロケット攻撃 事件	7/18 ロケット攻撃 事件	7/9 ロケット攻撃 事件	

本派遣の特性

派遣準備期

- 従来のPKOとは異なる派遣の枠組み
- 安全管理を重視した政治的意義を有する派遣
- 政治的要求に起因する派遣上の制約
- 中東地域という地域的特性



派遣実施期

- 施工管理型のCIMIC(軍民協力)活動
- 外務省との連携による人道復興支援
- 新たに生じた脅威に対する対応
- 統合運用体制への移行



撤収期

- 受動的な撤収時期の決定
- 安全管理を考慮した大規模かつ短期間の撤収活動
- 装備品等の撤収を支援する新たな部隊を派遣



イラクにおける多国籍軍の展開状況

派遣当初 (H16.2現在)

撤収時 (H18.6現在)

イラク
全土

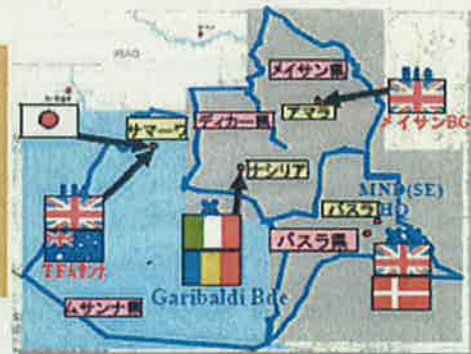
35カ国

29カ国

イラク
南東部

11カ国

7カ国



自衛隊の任務及び全般態勢

【各自衛隊派遣部隊の主な活動内容】

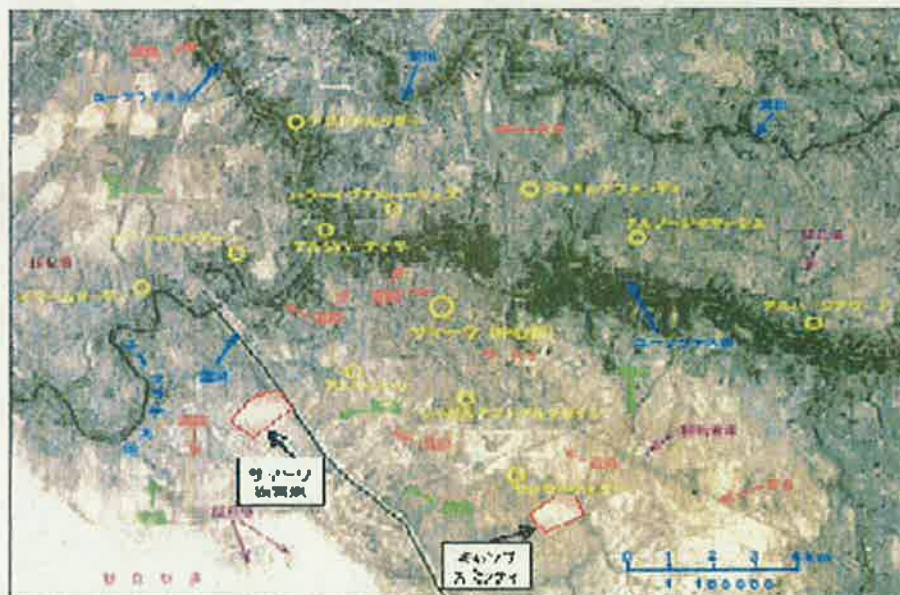
- 陸自：医療
給水
学校等公共施設の復旧整備
- 空自：輸送機 (C-130) による輸送
- 海自：輸送艦等による輸送



わが国の復興支援の全体像

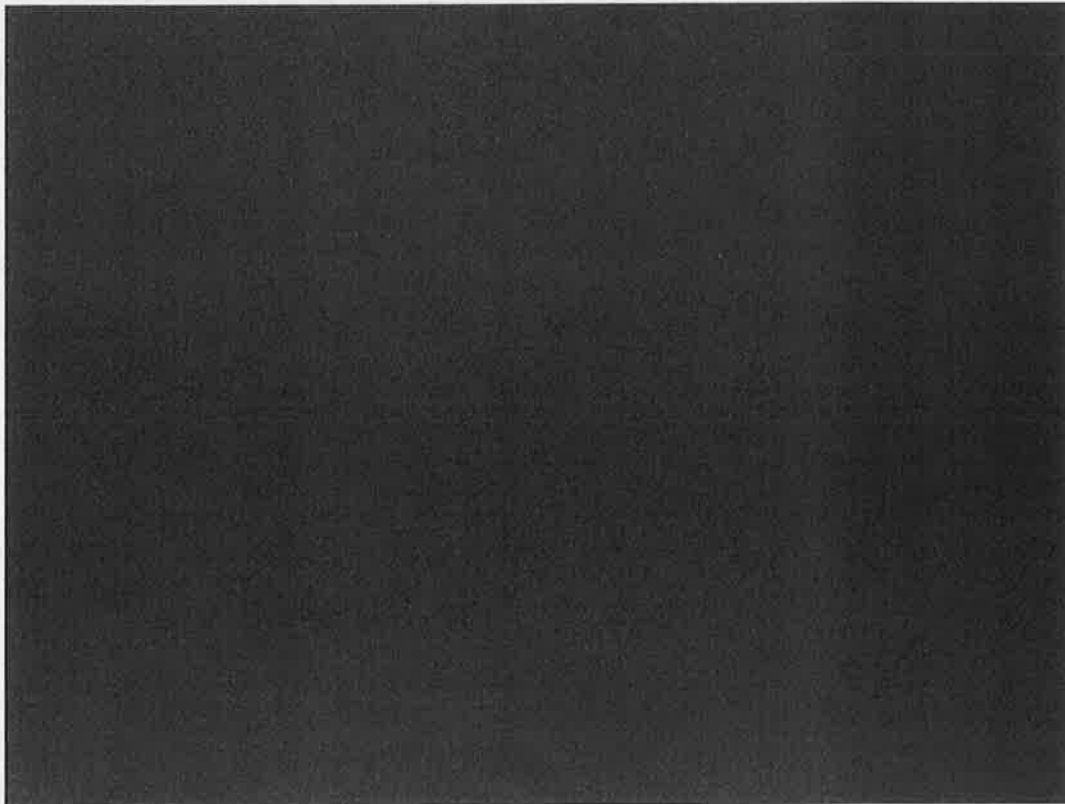


サウーワ周辺図(衛星画像)



第1章 総説

サマーワ宿営地の概要図



第2編 イラク人道復興支援

第1節 全 般

1 陸上自衛隊の部隊による活動

2004年1月、第1次イラク復興支援群及びイラク復興業務支援隊を派遣して以降、イラク復興支援群（約3か月で部隊交代）を10次にわたり派遣するとともに、イラク復興業務支援隊の要員交代（約6か月ごと）を5次にわたり行なった。

また、2006年6月20日、政府がイラクで活動する陸上自衛隊の部隊を撤収させることを決定したことに伴い、イラク後送業務隊をクウェート及びイラクに派遣した。この間、延べ約5,500人の隊員がイラク人道復興支援活動等に取り組み、現地の生活基盤の整備、厳しい雇用環境の緩和など、様々な面で大きな成果をあげ、現地住民、ムサンナ県当局、イラク政府及び国際社会から高い評価を得て、2006年9月15日、イラク後送業務隊の編成解組をもって、陸上自衛隊によるイラク復興支援活動は終了した。

2 ムサンナ県の復興の進展状況

我が国によるイラクの復興支援が開始された当初は、飲料水などの生活用水の不足や医療、教育施設などの生活基盤などが不十分な状況にあった。また、治安状況も全般として予断を許さない状況が継続していた。このような環境下で、わが国は、円滑かつ安全に活動を遂行できる自己完結性を備えた自衛隊の能力を活用し、現地が自ら復興するための最小限の基盤を整備するため、早急に必要とされる支援を中心に、活動を進めた。こうした活動と2億ドルを超える無償資金協力の実施とあいまって、ムサンナ県の生活環境は着実に改善された。

3 オランダ軍、イギリス軍及びオーストラリア軍との連携

ムサンナ県の治安維持の任務を有していたオランダ軍からは、陸上自衛隊の部隊の派遣前に行われた調査チームに対する支援、部隊の展開に対する支援、活動開始後の各種支援など様々な支援を受けた。2005年3月、オランダ軍に替わり、イギリス軍がムサンナ県の治安維持任務を引き継いだ。さらに、同年5月からオーストラリア軍がサマウワに派遣され、イギリス軍とともに活動した。

陸上自衛隊の部隊が活動を行う際には、各国軍と連携する必要があるため、現地部隊においては、相互に連絡員を派遣した他、定期的な意見交換・文化交流やその他の交流を図るなど、密接に協力しつつ活動を行った。

第2節 イラク人道復興支援活動の経緯

1 第1次群

年月日	活 動 内 容 等
2003年10月27日	対応措置検討準備室・支援室発足
11月 4日	対応措置検討準備隊・支援隊発足
2004年 1月16日	先遣隊出国
1月21日	宿営予定地の測量開始
1月26日	編成命令発令
1月27日	仮宿営地の構築開始
2月 1日	第1次イラク復興支援群編成完結式・隊旗授与式

第1章 総説

2004年	2月 3日	先発隊出国
	2月 8日	先発隊サマーワ到着
	2月12日	宿营地施設の構築・仮宿营地拡張開始
	2月19日	医務室開設
	2月21日	本隊第1波出国、
	2月27日	本隊第1波サマーワ到着
	3月10日	給水車供与式
	3月13日	本隊第2波出国
	3月14日	母子病院等医療技術提供式
	3月20日	本隊第3波出国
	3月25日	グラージ等学校補修開始
	3月26日	給水支援活動開始、ワルカ等道路補修開始
	4月 1日	陸上幕僚長・第2師団長視察
	4月13日	ご近所プロジェクト開始
	4月15日	邦人報道関係者等のイラク国外退去に伴う輸送支援
	5月8～12日	本隊第1波サマーワ出発
	5月16日	医薬品供与式
	5月18～19日	本隊第2波サマーワ出発
	5月20日	サッカーボール供与式
	5月26日	指揮転移式（第1次群から第2次群へ）
	5月27日	本隊第3波サマーワ出発
	6月 6日	隊旗返還式
	6月10日	編成廃止

2 第2次群

年月日	活 動 内 容
2003年11月 5日	対応措置検討準備隊編成完結
2004年 1月16日	第2次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
	4月27日 第2次イラク復興支援群編成完結
	5月 8日 隊旗授与式、第1波出国
	5月13日 第1波先発隊サマーワ到着
	5月15日 第2波出国
	5月17日 第1波サマーワ到着
	5月22日 第3波出国
	5月24日 第2波（前段）サマーワ到着
	5月26日 指揮転移式（第1次群から第2次群へ） 第2波（後段）サマーワ到着
	5月27日 群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
	5月31日 第3波サマーワ到着
	6月7～8日 北部方面総監視察

第2編 イラク人道復興支援

2004年 6月13日	オローバ中学校竣工式
6月22～23日	防衛庁運用局長、陸幕運用2班長等来訪
6月28日	C P A（連合暫定施政局）からイラク暫定政権への 政権移譲
7月 7日	給水隊、逆浸透浄水装置（民生品）運用開始
7月10日	MND（SE）師団長来訪
7月17日	統幕3室長来訪
7月19日	アルクワシ道竣工式、県知事等との懇談
7月20日	MND（SE）師団長来訪
7月21日	関係部族長等との懇談
7月25日	第1回サマーワ地区友好行事
8月 1日	業務支援隊交代式（第1次要員から第2次要員へ）
8月 7日	第2回サマーワ地区友好行事
8月 8日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
8月16日	第1波サマーワ出発
8月22日	第2波第1梯隊サマーワ出発
8月23日	第2波第2梯隊サマーワ出発
8月24日	陸幕監察官等来訪
8月30日	指揮転移式（第2次群から第3次群へ）、第3波第1 梯隊サマーワ出発
8月31日	第3波第2梯隊サマーワ出発
9月12日	隊旗返還式
9月16日	編成廃止

3 第3次群

年月日	活 動 内 容 等
2004年 3月28日	第3次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
7月28日	第3次イラク復興支援群編成完結
8月 8日	隊旗授与式、第1波出国
8月15日	第1波第1梯隊サマーワ到着、第2波出国
8月16日	第1波第2梯隊サマーワ到着
8月19日	第1波第3梯隊サマーワ到着
8月22日	第2波第1梯隊サマーワ到着
8月23日	第2波第2梯隊サマーワ到着、第3波出国
8月30日	指揮転移式（第2次群から第3次群へ）、第3波第1 梯隊サマーワ到着
8月31日	第3波第2梯隊サマーワ到着
9月 2日	第3波第3梯隊サマーワ到着
9月 6日	第3波第4梯隊サマーワ到着
9月10日	オランダ軍との交流会（キャンプスミッティ）

第1章 総説

2004年	9月13日	サマーワ女子校竣工式
	9月14日	アルヘデフ小学校竣工式
	9月15日	日本・イラク文化交流行事「The お祭り」、R 8 交差点工事竣工式
	9月20日	陸幕調査部長来訪
	9月21日	統合幕僚会議議長、統幕3室長来訪
	9月22日	オリンピックスタジアム竣工式
	9月24日	自衛隊50周年記念行事（オランダ軍との交流会）
	9月25日	ODA医療器材供与式
	9月27日	日本・オランダ軍兵站担当者会同
	9月28日	オランダ軍女性兵士・女性自衛官交流
	9月30日	空中監視装置通常運用開始
	10月 1日	MNC - I 副司令官、MND（SE）副師団長来訪
	10月 4日	ヒドル中学校竣工式、オランダ軍とのS3会同（キャンプスミッティ）
	10月 5日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
	10月 7日	陸幕長、第9師団長等視察
	10月12日	サマーワ市内道路竣工式、オランダ軍女性兵士・女性自衛官交流
	10月13日	バトカー供与式
	10月14日	ルメイサ男子中学校竣工式
	10月19日	アル・ヌーア小学校竣工式
	10月20日	日本・オランダ軍兵站担当者会同
	10月21日	アル・モカッファ小学校竣工式
	10月22日	ロケット弾宿営地内着弾事案
	10月27日	邦人拉致事案発生
	10月31日	MND（SE）師団長来訪、ロケット弾宿営地内着弾事案
	11月 8日	ウルク遺跡外柵竣工式
	11月 9日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
	11月11日	友好デモ（Oゲート前）、アル・ムサンナ中学校竣工式
	11月14日	ラマダンイードのため16日まで宿営地外活動自粛
	11月15日	オランダ軍大隊長交代式参加（キャンプスミッティ）
	11月16日	CENTCOM司令官来訪
	11月18日	アルブギダー道竣工式
	11月19日	先発隊サマーワ出発
	11月20日	イラク副首相来訪（キャンプスミッティ）

第2編 イラク人道復興支援

2004年11月21日	第1波第1梯隊サマーワ出発
11月22日	MND（SE）師団長来訪（表彰式）
11月22日	第1波第2梯隊サマーワ出発
11月26日	第2波第1梯隊サマーワ出発
11月27日	第1波帰国
11月28日	第2波第2梯隊サマーワ出発
11月29日	ソーマル小学校体育館・ブサイヤ小学校竣工式、第2波第3梯隊サマーワ出発
11月30日	在バスライギリス総領事来訪、第2波第4梯隊サマーワ出発
12月 3日	第3波第1梯隊サマーワ出発
12月 4日	第2波帰国
12月 5日	防衛庁長官視察
12月 6日	指揮転移式（第3次群から第4次群へ）、自民党・公明党幹事長来訪、第3波第2梯隊サマーワ出発
12月 7日	第3波第3梯隊サマーワ出発
12月12日	第3波帰国
12月18日	隊旗返還式
12月19日	編成廃止

4 第4次群

年月日	活 動 内 容 等
2004年 4月 7日	第4次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
11月 5日	第4次イラク復興支援群編成完結
11月13日	隊旗授与式、第1波出国
11月20日	第1波第1梯隊サマーワ到着、第2波出国
11月21日	第1波第2梯隊サマーワ到着
11月22日	第1波第3梯隊サマーワ到着
11月28日	第2波第1梯隊サマーワ到着、第3波出国
11月29日	第2波第2梯隊サマーワ到着
11月30日	第2波第3梯隊サマーワ到着
12月 4日	第3波第1梯隊サマーワ到着
12月 5日	防衛庁長官視察、第3波第2梯隊サマーワ到着
12月 6日	指揮転移式（第3次群から第4次群へ）、自民党・公明党幹事長来訪、第3波第3梯隊サマーワ到着
12月 9日	県知事等表敬訪問
12月11日	MND（SE）幕僚長来訪
12月13日	サマーワ市内道路竣工式
12月14日	MNC 1司令官表敬訪問（キャンブスミッティ）
12月15日	マカリム中学校・スウェイル水道管竣工式

第1章 総説

2004年12月16日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
12月21日	グラージ浄水場及び付帯道路竣工式
12月23日	県医薬品倉庫竣工式（サマーワ市内）
12月28日	MND（SE）師団長来訪
12月31日	東北方面総監視察
2005年 1月 4日	母子病院に対するODA医療器材供与式（宿营地）
1月 7日	日本・イラク親善フェスティバル（宿营地）
1月 8日	ヒラール・マジット浄水器竣工式
1月11日	ロケット弾宿营地内着弾事案
1月13日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
1月15日	サルマンPHC・サッカーグラウンド竣工式
1月16日	サマーワ市内道路竣工式（宿营地）
1月18日	逆浸透型浄水場竣工式
1月23日	業務支援隊交代式（第2次要員から第3次要員へ）
1月30日	国民議会選挙
2月5～8日	ご近所プロジェクト（アル・アスマエ小学校等4校）
2月6～7日	第6師団長視察
2月 8日	アムロ・アル・カイス小学校竣工式
2月10日	アル・タルミン道竣工式、第1波先発隊サマーワ出発
2月12日	第1波第1梯隊サマーワ出発
2月13日	第1波第2梯隊サマーワ出発
2月17日	MND（SE）師団長来訪、アル・クワシ道竣工式
2月19日	第2波第1・2梯隊サマーワ出発、第1波帰国
2月20日	第2波第3・4梯隊サマーワ出発
2月25日	第3波陸路梯隊サマーワ出発
2月26日	ナジミPHC竣工式、陸自支援デモ、第2波帰国
2月27日	指揮転移式（第4次群から第5次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ出発
2月28日	第3波第2梯隊サマーワ出発
3月 5日	第3波帰国
3月 6日	隊旗返還式
3月12日	編成廃止

5 第5次群

年月日	活 動 内 容 等
2005年 1月28日	第5次イラク復興支援群編成完結
2月 5日	隊旗授与式、第1波出国
2月12日	第2波出国、第1波第1・2梯隊サマーワ到着
2月13日	第1波第3梯隊サマーワ到着

第2編 イラク人道復興支援

2005年	2月19日	第2波第1・2梯隊サマーワ到着
	2月20日	第2波出国、第2波第3梯隊サマーワ到着
	2月27日	指揮転移式（第4次群から第5次群へ）、第3波第1・2梯隊サマーワ到着
	3月 7日	群長・業務支援隊長、オランダ・イギリス軍指揮転移式参加
	3月21日	MNC - 1副司令官来訪
	4月5～6日	中部方面総監視察
	4月15日	MNC - 1副司令官来訪
	4月16日	群長、SNR会議参加（バグダッド）
	4月18日	MNF参謀長来訪
	4月30日	オーストラリア国防長官・MNF - 1副司令官来訪
	5月8～9日	第10師団長視察
	5月 9日	MND（SE）師団長来訪
	5月14日	第1波第1梯隊サマーワ出発
	5月15日	第1波第2梯隊サマーワ出発
	5月18日	イギリス軍統合参謀長来訪
	5月20日	MND（SE）副師団長来訪
	5月21日	第1波帰国、第2波第1・2梯隊サマーワ出発
	5月22日	第2波第3・4梯隊サマーワ出発
	5月27日	指揮転移式（第5次群から第6次群へ）
	5月28日	第2波帰国、第3波第1梯隊サマーワ出発
	5月29日	第3波第2梯隊サマーワ出発
	6月 4日	第3波帰国
	6月 5日	隊旗返還式
	6月11日	編成廃止

6 第6次群

年月日	活 動 内 容 等
2004年10月19日	第6次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
2005年 4月26日	第6次イラク復興支援群編成完結
5月 7日	隊旗授与式、第1波出国
5月13日	第1波陸路隊サマーワ到着
5月14日	第1波第1・2梯隊サマーワ到着、第2波出国
5月15日	第1波第3梯隊サマーワ到着
5月21日	第2波第1・2梯隊サマーワ到着
5月22日	第2波第3梯隊サマーワ到着、第3波出国
5月27日	指揮転移式（第5次群から第6次群へ）
5月29日	第3波第1・2梯隊サマーワ到着
6月 2日	アルホールド小学校竣工式

第1章 総 説

2005年 6月 7日	スワルPHC竣工式
6月 8日	バビブ・イブン・ムダーハル小学校竣工式
6月 9日	サマーワギャラリー竣工式
6月12日	サマーワ総合病院ODA医療器材供与式
6月14～15日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
6月20日	UAV落着事案
6月20～22日	陸幕副長・第3師団長視察
6月23日	羊四叉路爆破事案
6月26日	ムサンナ県知事来訪
6月27日	MND（SE）師団長来訪
7月 1日	ムサンナ県治安最高責任者来訪
7月 4日	ロケット弾攻撃事案
7月 7日	マジット郡内道路・アルブ・ギター道竣工式
7月11日	部族長等会議（出島地区）
7月17日	サマーワ・スポーツクラブ竣工式
7月18日	業務支援隊交代式（第3次要員から第4次要員へ）
7月20日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
7月21日	業務支援隊長、ムサンナ県知事訪問
8月 4日	MND（SE）師団長来訪、第1波先行班サマーワ出発
8月4～6日	陸上幕僚長視察
8月 6日	第1波第1梯隊サマーワ出発
8月 9日	第1波第2梯隊サマーワ出発
8月11日	アルアメル・アルラジャ義護施設竣工式
8月13日	第1波帰国、第2波第1梯隊・第2梯隊先行班サマーワ出発
8月14日	第2波第2梯隊サマーワ出発
8月15日	第2波第3梯隊サマーワ出発
8月19日	指揮転移式（第6次群から第7次群へ）
8月20日	第2波帰国
8月27日	第3波帰国
9月 3日	隊旗返還式
9月 4日	編成廃止

7 第7次群

年月日	活 動 内 容 等
2005年 4月 3日	第7次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
7月19日	第7次イラク復興支援群編成完結
7月30日	隊旗授与式、第1波出国
8月 6日	第2波出国

第2編 イラク人道復興支援

2005年 8月 9日	第1波第1梯隊サマーワ到着
8月10日	第1波第2梯隊サマーワ到着
8月11日	第1波第3梯隊サマーワ到着
8月13日	第2波第1梯隊サマーワ到着
8月14日	第2波出国、第2波第2梯隊サマーワ到着
8月15日	第2波第3梯隊サマーワ到着
8月17日	群長、MND（SE）指揮官会議参加
8月19日	指揮転移式（第6次群から第7次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ到着
8月20日	第3波第2梯隊サマーワ到着
8月28日	アル・イザハラ女子中学校等3校竣工式
9月 4日	インテサルPHC竣工式
9月4～7日	不要天幕の撤収（警備中隊地区28張）
9月 5日	長崎県知事・第4師団長とのTV会談
9月 6日	ムサンナ県知事との会談
9月 7日	MNC—I副司令官来訪
9月 8日	アッバスPHC等3PHC竣工式
9月17日	内局運用局長、統幕第3室長視察
9月22日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
9月26日	業務支援隊長、ムタワク橋起工式参加
10月 2日	第4師団長視察
10月 4日	アル・ナツソ小学校竣工式
10月17日	MND（SE）師団長来訪
10月19日	ハイダリアPHC竣工式
10月24日	ゴ近所PJ（アル・アスマイ小学校等2校）
10月25日	アッサグーカ道及びアビンリッシュ道竣工式
10月29日	第1波第1梯隊サマーワ出発
10月30日	第1波第2梯隊サマーワ出発、陸幕監理部長等視察
11月 2日	マジットPHC竣工式
11月 4日	第2波第1梯隊サマーワ出発
11月 5日	第2波第2梯隊サマーワ出発、第1波帰国
11月 6日	第2波第3梯隊サマーワ出発
11月 7日	第2波第4梯隊サマーワ出発
11月11日	第3波第1梯隊サマーワ出発
11月12日	指揮転移式（第7次群から第8次群へ）、第3波第2梯隊サマーワ出発
11月13日	第3波第3梯隊サマーワ出発、第2波帰国
11月14日	第3波第4梯隊サマーワ出発
11月20日	第3波帰国

第1章 総説

2005年11月26日	隊旗返還式
11月27日	編成廃止

8 第8次群

年月日	活動内容等
2005年 6月 9日	第8次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
10月11日	第8次イラク復興支援群編成完結
10月22日	隊旗授与式、第1波出国
10月28日	第1波第1梯隊サマーワ到着
10月29日	第1波第2梯隊サマーワ到着、第2波出国
10月30日	第1波第3梯隊サマーワ到着
11月 4日	第2波第1梯隊サマーワ到着
11月 5日	第2波第2梯隊サマーワ到着
11月 6日	第2波第3梯隊サマーワ到着、第3波出国
11月 7日	第2波第4梯隊サマーワ到着
11月 8日	西部方面総監視察、TFMムサンナ指揮官来訪
11月12日	指揮転移式（第7次群から第8次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ到着
11月13日	第3波第2梯隊サマーワ到着
11月24日	TFMムサンナ指揮官来訪
12月 3日	防衛庁長官視察
12月17日	MND（SE）副師団長来訪
12月23日	TFMムサンナ指揮官来訪
12月27日	ルメイサ浄水場竣工式
12月28日	MND（SE）師団長来訪
2006年 1月 5日	MNF－I作戦部長来訪
1月8～9日	第8師団長視察
1月15日	ウルカ浄水場竣工式
1月23日	業務支援隊交代式（第4次要員から第5次要員へ）
2月 4日	第1波第1梯隊サマーワ出発
2月 5日	第1波第2梯隊サマーワ出発
2月10日	第2波第1梯隊サマーワ出発
2月11日	第2波第2梯隊サマーワ出発、第1波帰国
2月12日	第2波第3梯隊サマーワ出発
2月13日	第2波第4梯隊サマーワ出発
2月18日	指揮転移式（第8次群から第9次群へ）第3波第1梯隊サマーワ出発
2月19日	第3波第2梯隊サマーワ出発、第2波帰国
2月20日	第3波第3梯隊サマーワ出発
2月26日	第3波帰国

第2編 イラク人道復興支援

2006年 3月 4日	隊旗返還式
3月 5日	編成廃止

9 第9次群

年月日	活 動 内 容 等
2005年 8月31日	第9次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
2006年 1月20日	第9次イラク復興支援群編成完結
1月29日	隊旗授与式、第1波出国
2月 4日	第1波第1梯隊サマーワ到着、第2波出国
2月 5日	第1波第2梯隊サマーワ到着
2月 6日	第1波第3梯隊サマーワ到着
2月18日	指揮転移式（第8次群から第9次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ到着
2月19日	第3波第2梯隊サマーワ到着
2月24～25日	第1師団長視察
2月28日	アル・ホルード小学校（分校）竣工式
3月 1日	群長、MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
3月 5日	豪国防大臣表敬（キャンブスミッティ）
3月11～12日	富士学校長・第1空挺団長来訪
3月19日	イギリス国防大臣表敬（キャンブスミッティ）
3月23日	MND（SE）副師団長来訪
3月25日	ワルカPHC等6PHC竣工式
3月26日	アメリカ中央軍司令官来訪
3月27日	ネイサー中学校竣工式
3月28日	大型発電所事業開始式（サマーワ）
4月 2日	ルメイサ市内路竣工式
4月 4日	ヒドルPHC等3PHC竣工式
4月10日	アル・ミサック中学校、アル・クワキブ小学校竣工式
4月16日	ワルカポンプステーション、ワルカ付帯道竣工式
4月17日	サマーワ看護学校竣工式
4月18日	ムタワク橋竣工式
4月23日	社会福祉局待合い施設竣工式
4月26日	第1師団長視察、業務支援隊長・MND（SE）指揮官会議参加（バスラ）
5月 9日	ハサナインPHC等5PHC竣工式
5月10日	MND（SE）師団長来訪、先発班サマーワ出発
5月11日	アル・アスマイ小学校竣工式
5月13日	第1波第1梯隊サマーワ出発
5月14日	第1波第2梯隊サマーワ出発

第1章 総説

2006年	5月15日	東部方面総監来訪
	5月16日	ウーマン&チャイルドセンター竣工式
	5月19日	第2波第1梯隊サマーワ出発
	5月20日	第2波第2梯隊サマーワ出発、第1波帰国
	5月22日	第2波第3梯隊サマーワ出発
	5月23日	第2波第4梯隊サマーワ出発
	5月24日	ムサンナスタンド竣工式
	5月25日	空中機動グループ、サマーワ出発
	5月26日	指揮転移式（第9次群から第10次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ出発
	5月27日	第3波第2梯隊サマーワ出発
	5月28日	第2波帰国
	6月3日	第3波帰国
	6月10日	隊旗返還式
	6月11日	編成廃止

10 第10次群

年月日	活動内容等
2005年11月22日	第10次イラク復興支援群派遣準備隊編成完結
2006年4月28日	第10次イラク復興支援群編成完結
5月6日	隊旗授与式
5月7日	第1波出国
5月13日	第1波第1梯隊サマーワ到着
5月14日	第1波第2梯隊サマーワ到着、第2波出国
5月15日	第1波第3梯隊サマーワ到着
5月19日	第2波第1梯隊サマーワ到着
5月20日	第2波第2梯隊サマーワ到着
5月21日	第3波出国
5月22日	第2波第3梯隊サマーワ到着
5月23日	第2波第4梯隊サマーワ到着
5月26日	指揮転移式（第9次群から第10次群へ）、第3波第1梯隊サマーワ到着
5月27日	第3波第2梯隊サマーワ到着
5月31日	IED事案発生
6月20日	撤収命令発令
6月24日	サナア小学校竣工式
6月25～26日	第12旅団長視察
6月26日	LAV横転事案発生（3名負傷）
6月28日	サマーワ市大型発電所事業推進式
6月30日	ユース&スポーツセンター竣工式

第2編 イラク人道復興支援

2006年 7月 3日	新ルメイサ浄水場竣工式
7月 7日	先行班サマーワ出発
7月11日	第1波サマーワ出発
7月12日	第2波サマーワ出発
7月14日	第3波サマーワ出発
7月15日	第4波サマーワ出発
7月17日	第5波サマーワ出発
7月20日	第1波帰国
7月23日	第2波帰国
7月25日	第3波帰国
7月29日	隊旗返還式
7月30日	編成廃止

11 イラク後送業務隊

年月日	活 動 内 容 等
2006年 2月21日	撤収支援隊（仮称）準備チーム立ち上げ（市ヶ谷）
3月1日～14日	陸幕導入教育及び機能別訓練
4月 7日	業務支援隊の交代要員として18名派遣
4月10日	交代要員（ ）サマーワ到着
4月17日	車両 両サマーワからクウェートへ後送
4月24日	車両 両サマーワからクウェートへ後送
4月30日	車両 両、コンテナ8本サマーワからクウェートへ後送
6月 9日	空コンテナ28本サマーワからクウェートへ後送
6月10日	空コンテナ26本サマーワからクウェートへ後送
6月12日	空コンテナ28本サマーワからクウェートへ後送
6月13日	空コンテナ28本サマーワからクウェートへ後送
6月20日	撤収命令発令
6月25日	車両 両サマーワからクウェートへ後送
6月26日	後送業務隊隊旗授与式（市ヶ谷）、中部国際空港より出国（ ）名）、コンテナ56本サマーワからクウェートへ後送
6月27日	キャンプバージニア到着、コンテナ28本、車両 両サマーワからクウェートへ後送
6月30日	車両 両サマーワからクウェートへ後送
7月 2日	撤収活動開始式（クウェート）
7月 3日	コンテナ72本サマーワからクウェートへ後送
7月 5日	車両 両サマーワからクウェートへ後送
7月 7日	コンテナ59本サマーワからクウェートへ後送
7月 8日	車両 両サマーワからクウェートへ後送

第1章 総説

2006年 7月 9日	コンテナ36本サマーワからクウェートへ後送（弾薬コンテナ6本、タリル基地からムバラク基地へ民間貨物機IL76で輸送）
7月10日	弾薬コンテナ6本キャンプバージニア弾薬庫へ卸下、コンテナ36本サマーワからクウェートへ後送
7月11日	車両2両、サマーワからクウェートへ後送
7月14日	コンテナ34本サマーワからクウェートへ後送
7月15日	車両2両、サマーワからクウェートへ後送
7月16日	防衛庁長官視察、車両2両、サマーワからクウェートへ後送、車両2両、タリル基地からクウェートへ後送、コンテナ47本シュワイバ港から本邦へ後送
7月17日	車両2両、コンテナ2本、サマーワからクウェートへ後送、車両2両、タリル基地からクウェートへ後送
7月19日	支援群等第1波277名の帰国支援
7月22日	武器・弾薬コンテナ9本クウェートから本邦へアントノフで後送、支援群等第2波277名の帰国支援、車両2両、シュワイク港から本邦へ後送
7月24日	支援群等第3波277名の帰国支援
7月30日	キャンプバージニア閉所式
8月 1日	コンテナ70本シュワイバ港から本邦へ後送
8月 4日	外務大臣視察
8月 6日	陸幕装備部長来訪
8月11日	車両2両、シュワイク港から本邦へ後送
8月21日	コンテナ70本シュワイバ港から本邦へ後送
8月23日	車両2両、シュワイク港から本邦へ後送
8月30日	コンテナ113本シュワイバ港から本邦へ後送
9月 4日	車両2両、コンテナ168本シュワイク港から本邦へ後送
9月 5日	車両（WAPC）2両をチャーター貨物機（アントノフ）でムバラク空軍基地から本邦へ後送、指揮所閉所
9月 8日	103名クウェート出国
9月 9日	帰国（羽田空港）
9月11日	隊旗返還式
9月15日	イラク後送業務隊編成解組

第2編 イラク人道復興支援

第3節 歴代イラク復興支援群長、歴代イラク復興業務支援隊長及びイラク後送業務隊長

1 歴代イラク復興支援群長

職 名	階級（当時）	氏 名
第1次イラク復興支援群長	1等陸佐	番匠 幸一郎
第2次イラク復興支援群長	1等陸佐	今浦 勇紀
第3次イラク復興支援群長	1等陸佐	松村 五郎
第4次イラク復興支援群長	1等陸佐	福田 繁
第5次イラク復興支援群長	1等陸佐	太田 清彦
第6次イラク復興支援群長	1等陸佐	鈴木 純治
第7次イラク復興支援群長	1等陸佐	岡崎 勝司
第8次イラク復興支援群長	1等陸佐	立花 尊顯
第9次イラク復興支援群長	1等陸佐	小野寺 靖
第10次イラク復興支援群長	1等陸佐	山中 敏弘

2 歴代イラク復興業務支援隊長

職 名	階級（当時）	氏 名
イラク復興業務支援隊長（第1次）	1等陸佐	佐藤 正久
イラク復興業務支援隊長（第2次）	1等陸佐	田浦 正人
イラク復興業務支援隊長（第3次）	1等陸佐	岩村 公史
イラク復興業務支援隊長（第4次）	1等陸佐	斎藤 剛
イラク復興業務支援隊長（第5次）	1等陸佐	小瀬 幹雄

3 イラク後送業務隊長

職 名	階級（当時）	氏 名
イラク後送業務隊長	1等陸佐	加治屋 裕一

第2章 派遣準備



第2編 イラク人道復興支援

第1節 全 般

各師団（旅団）は、各イラク復興支援群の編成担任部隊として、派遣準備に関する各方面隊一般命令に基づき、派遣準備を行った。この際、派遣要員候補者の選考・指定及び教育訓練を重視して派遣準備に万全を期した。

各師団（旅団）は、当初、派遣準備隊本部を編成し、派遣準備に関わる業務に着手するとともに、じ後の派遣準備訓練の基盤を確立した。その後、群長候補者を長とした派遣準備隊の編成を完結し、数ヶ月にわたる準備訓練において、

を実施して派遣準備を完整した。じ後、復興支援群として編成を完結、防衛庁長官から隊旗を授与され、3波に分かれてそれぞれの出発地から出国した。

第2節 各機能別の部隊の活動状況及び教訓・提言等

1 人 事

（1）部隊の活動状況

ア 全 般

派遣準備に当たり、先行的に各種業務を実施するとともに、諸職種かつ多くの部隊により編成された部隊である特性にかんがみ、団結の強化、規律の維持及び士気の高揚を主眼として、各種施策を推進し、派遣準備の万全を図った。

【各 群】

イ 要員選考

上級部隊と連携しつつ、部隊建制の保持を重視し、隊員の意志及び家族の状況を確認しつつ要員選考を実施した。

特に、隊員の心情（身上）の継続的な把握を実施するとともに、出国前身体検査結果に基づき、真に派遣任務に専念できる隊員を選考し、全隊員が一致団結、崇高な使命感をもって出国できる態勢を確立した。【各 群】

ウ 派遣前人事業務の実施

上級部隊及び関係部隊と密接に連携し、臨時健康診断の調整・手続、予防接種の調整・手続、パスポート・国際運転免許証の申請・取得、出入国の調整、中隊等配置及び職務指定の処置等を先行的かつ適正に実施した。

また、準備間及び出国前の全体教育・各波教育において、人事関係書類の携行要領、出国手続要領等について徹底を図り、派遣間における人事業務の準備の万全を図った。【各 群】

エ 服 務

（ア）指揮官企図の徹底

朝礼、幕僚日々ミーティング、指揮官等ミーティング等を実施し、準備隊長の企図を徹底するとともに、各指揮官からの主要事象の報告により準備状況の確認、情報の共有化を図り、派遣に向けての準備を整齊円滑に実施した。

【各 群】

（イ）団結の強化及び士気の高揚

群独自のシンボルマークを作成して、Tシャツ等に装着し、全隊員（予備

第2章 派遣準備

要員を含む。)が着用し、派遣群の隊員であるという帰属意識の高揚と派遣に当たっての士気の高揚を図った。【各 群】

(ウ) 規 律

a 服務指導

派遣準備間、各小隊、班等編制に応じた服務指導組織を確立し、心情(身上)把握及び服務指導を実施した。また、隊員の出身・留守家族・特技等を整理した服務指導資料を作成し、服務指導の資とした。【各 群】

b 営内服務規則の作成・施行

派遣準備間、派遣準備隊服務規則を作成・施行し、営内生活の準拠を示すとともに、規律の維持に努めた。【各 群】

カ 福利・厚生

厚生用品・売店用品の取得

派遣部隊の使用する厚生用品及び現地に設置する厚生センターの備品等について、陸幕・派遣部隊等と調整しつつ、北海道補給処及び補給処近傍駐屯地業務隊をもって調達し、北海道補給処の支援を得て梱包・発送するとともに、派遣部隊への管理換の手続を実施した。また、現地売店は共済組合本部の直営売店とするとともに、派遣隊員の一部を共済組合委託販売員として指定し、購入代金については俸給から翌月一括天引きとする方式で実施するよう準備した。販売物品については、派遣部隊の希望等に基づき決定し、共済組合本部が国内で調達し、厚生用品等とともに現地に輸送するよう準備した。【北部方面隊】

キ 留守業務(家族支援)

方面留守業務(家族支援)センター(長:厚生課長)を開設、陸幕留守業務センターと連携し、方面留守業務組織の構成、派遣前の家族説明会の実施、派遣間の留守業務の準備、出国関連行事参加家族支援等を計画的に実施し派遣に備えた。【各方面隊】

ク 健康管理

派遣前部隊、派遣各部隊指揮官等と連携し、出国前身体検査に備え、中・長期的な指導を実施した。特に、歯科治療の態勢を医務室と連携して整備し、不合格者の絶無を図った。【各 群】

(2) 教訓・提言等

ア 要員選考

希少特技者、特に栄養士の資格者が限定され要員の選考が難航した。長期的な視野に立った養成が必要である。また、今回の派遣のように過酷な環境・任務が予想される場合においては、部隊は男性隊員を優先して選考する傾向がある。そのため、女性隊員の選考を必要とする場合は、当初の段階から職務、人数を明らかにする必要がある。【北部方面隊】

イ 団結の強化

本部管理中隊[]にもかかわらず、[]であり、当初、団結心、帰属意識の醸成が遅れることとなった。このため、意見交換や原隊紹介等により隊員相互の理解を促し、この問題の解決を図

第2編 イラク人道復興支援

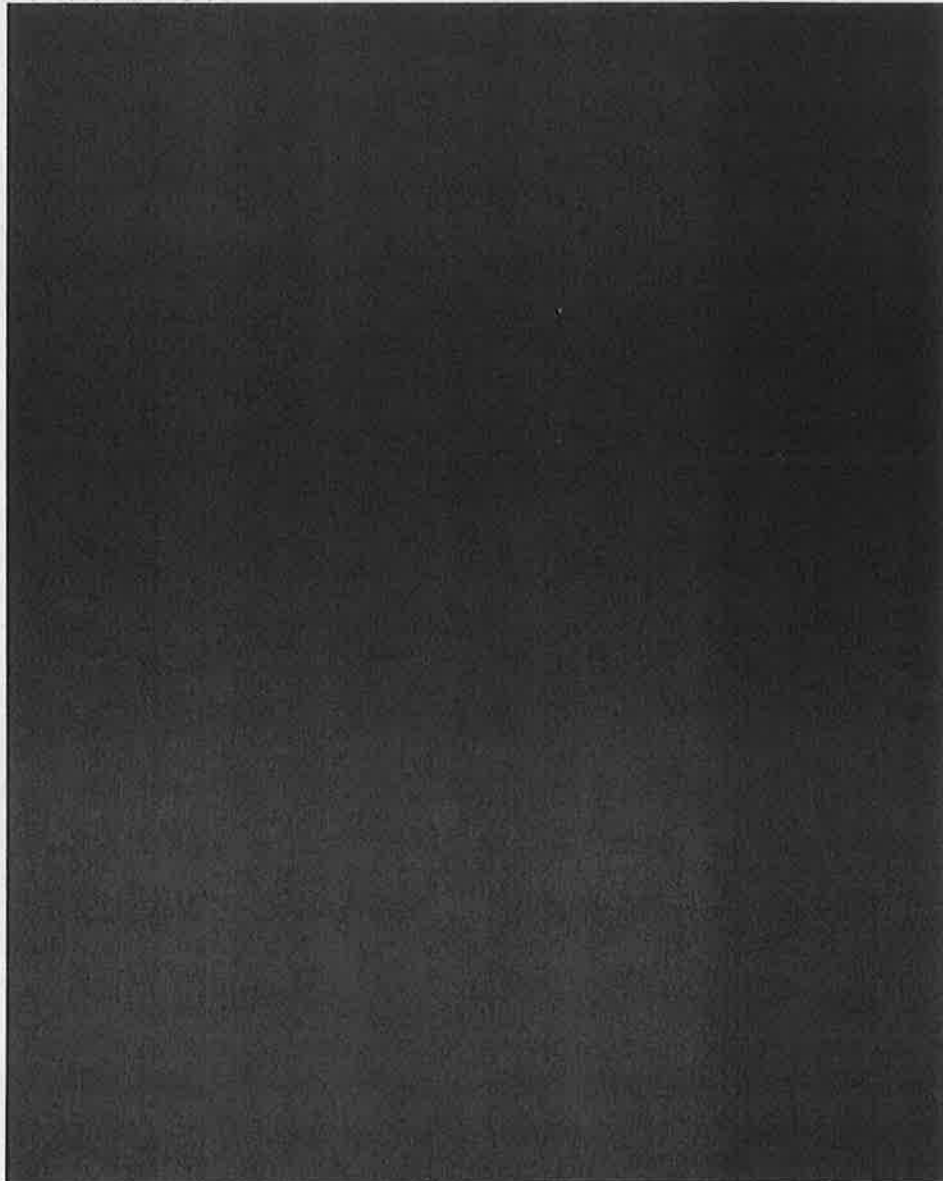
った。【2次群】

ウ 福利・厚生

当初の段階で、厚生用品の輸送手段が現場レベルで確保されておらず、再調整を要した。厚生用品の調達内容・時期の決定に当たっては、梱包・輸送を担当する補給処等と当初の段階から綿密な調整が必要である。【北部方面隊】

2 衛生・メンタルヘルス

(1) 部隊の活動状況



(2) 教訓・提言等

ア 準備訓練における教官（アドバイザー）の派遣

（ア）準備訓練において過去派遣された支援群衛生隊要員の指導・助言を受けたことは、じ後の部隊運用への補備・修正に重要な事項であるとともに各隊員へ大きな自信付与となり、現地活動においても非常に有効であった。しかしながら、業務支援隊医務要員等とは事前訓練がなかったため、現地において任務区分、責任区分及び業務要領の調整と認識の整合に時間を要したことから、準備訓練間においては、過去に派遣されたことのある業務支援隊医務要員を部隊に派遣して指導等する必要がある。【6・8次群】

（イ）準備訓練に第6次群衛生隊救急車班長が派遣され、衛生隊の現地での活動状況及び訓練に関する助言を直接受けることができたことは、じ後の訓練及び部隊運用の考察に当たって大変参考になるとともに、各隊員への大きな自信の付与となり、派遣後の活動においても非常に有効であった。短期間で準備訓練を完成させる必要があることを考えた場合、準備訓練の当初の段階であれば、なお有効であったと考えられる。【9次群】

（ウ）FTC訓練時に第8次群衛生隊副隊長等が派遣され、衛生隊の現地での活動状況及び訓練に関する助言を直接受けることができたことは、じ後の訓練及び部隊運用の考察に当たって大変参考になるとともに、各隊員への大きな自信の付与となり派遣後の活動においても非常に有効であった。これは、日々変化する現地の活動状況を訓練に反映させる意味において有効であった。また、アドバイザー自身の体験に基づく話は、有意義なものであった。

【10次群】

イ 業務支援隊の訓練参加

第3次野営訓練時から第5次業務支援隊が訓練に参加し、派遣前の段階で接触・調整ができたことは、現地到着後の意志の疎通の観点からも非常に有効であった。【9次群】

ウ 衛生学校における職種教育

（ア）衛生学校における医官・看護官及び救護陸曹等に対する教育において、不測事態対処の観点から自隊衛生業務に主眼をおいた教育が実施されたが、

【6・8次群】

（イ）医官、臨床検査技師、救急救命士の全隊員を対象とした共通教育及び保有免許別教育を実施したが、共通教育についてはそれぞれ専門性が違うため、帯に短し褌（たすき）に長しといった印象であった。共通教育の内容を精選し、免許別教育の充実が望ましい。【9・10次群】

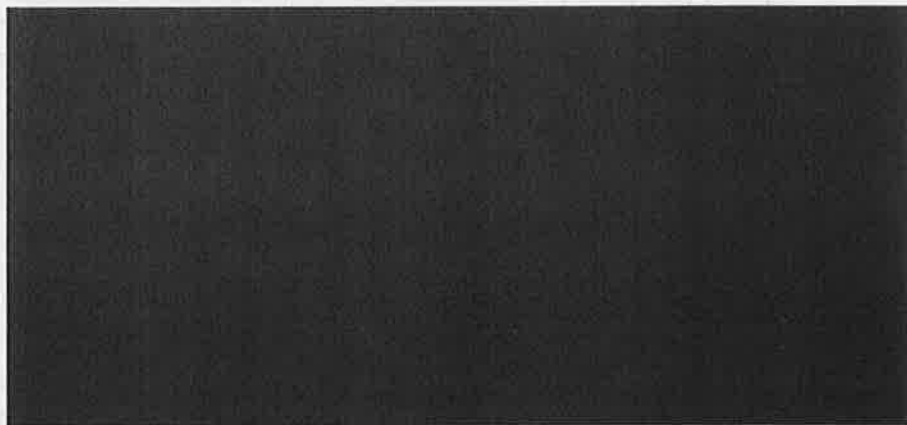
第2編 イラク人道復興支援

(ウ) 機能別の教育については、現地での活動を踏まえ、実習の割合の増加が望ましい。【9次群】

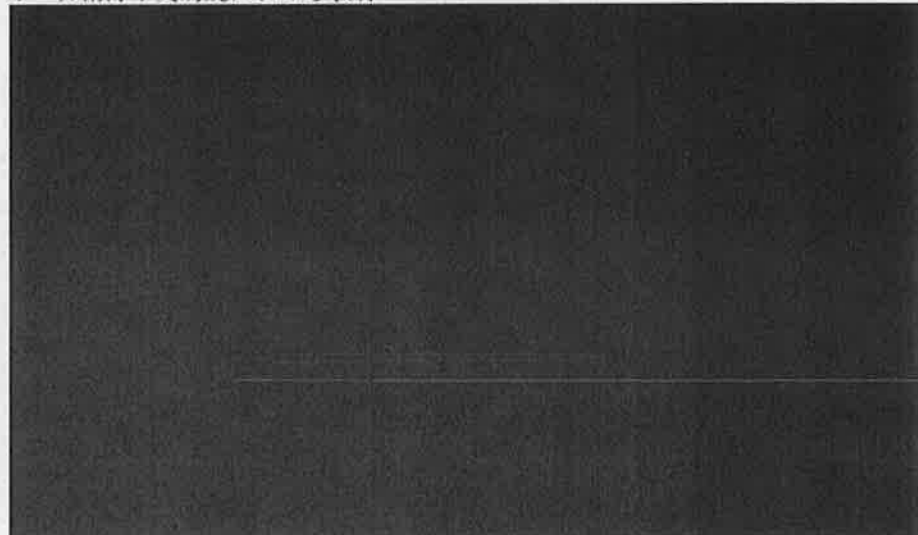
(エ) 過去派遣された支援群の要員による教育は非常に貴重であるが、1年以上過去の内容である場合もあり、最新の状況を教育に反映させるために、教官等を短期間現地に派遣し、視察や聞き取り結果を教育内容に反映することが望ましい。

【10次群】

エ 補給統制本部における教育



オ 自衛隊中央病院における教育



カ 検査班の準備訓練



(イ) 復興支援業務における技術指導に関して準備した内容は、インストール、メンテナンスが主体であり、現地でニーズの高かった故障排除には基本的に対応することはできなかった。このことから、今後、同様の派遣が行われる際には、現地ニーズに合った準備を可能とする態勢の確立が必要である。また、一部のメーカーの試薬については、使用期限が短期間のものもあり、請求から現地で納入された後、まもなく期限切れとなることもあったため、消耗品（試薬）の性能（使用可能期間）を含めた適切な器材選定が必要である。

【10次詳】

キ 救急処置に関わる器材

ク 準備訓練と予防接種の節調

痘瘡の接種要領について、衛生学校での教育を受けた医官、看護官等が所属する駐屯地では円滑に接種ができたが、教育を受けていない医官、医務室勤務員が所属する駐屯地に対しては、教育を受けた医官等を準備訓練等に参加させることなく当該駐屯地に派遣せざるを得なかった。効果的な訓練と効率的な予防接種の節調のため、方面での事前教育が必要である。【6次詳】

ケ 情報の不足

第2編 イラク人道復興支援

3 会 計

(1) 部隊の活動状況

ア 予 算

イラク経費として旅費及び物件費について所要の決定（調整）、請求及び配分を実施した。【各方面隊】

イ 調 達

各補給処をはじめ支援群の編成完結地等の会計隊等により、派遣部隊携行品の輸送、隊旗授与式等行事支援及びその他の部隊派遣に係る諸準備の調達を実施した。【各方面隊】

ウ 旅 費

派遣隊員が要員として指定された際に所属していた部隊の会計業務支援を実施する会計隊等をもって、外国旅費（支度料）の支払いを実施した。

【各方面隊】

エ 派遣隊員への給与等に関する情報提供

支援会計隊長等を通じて赴任旅費、外国旅費（支度料）及び諸手当について、その取扱要領や支払時期の普及を図った。イラク人道復興支援等手当による所得増加に伴う所得税、市町村民税及び共済掛金等の控除額増加について、その仕組みや対象となる時期等の説明は、各方面総監部人事部厚生科が家族説明会において実施した。【各方面隊】

(2) 教訓・提言等

ア 給与・旅費業務処理要領の統制

陸幕の「イラク人道復興支援等に係る会計事務処理要領について（通達）」の発出を待たざるをえなかったため、方面隊として細部の統制及び調整事項を示し、派遣に関する会計支援を整齊円滑に実施するための準備とする「イラク人道復興支援に係る給与・旅費業務処理要領について（通知）」の発簡が遅れたが、特に必要とする支援会計隊に対しては「業務処理要領（案）」の段階から先行的に情報を提供して、可能な範囲の中で先行的な準備を積極的に進める必要がある。【北部方面隊】

イ 支度料の支払

支援群に先立って出国した業務支援隊の要員は、編成命令から出国までの期間が極めて短く、支度料の支払に非常な困難を来したが、陸幕、中央会計隊及び方面会計隊の尽力によって出国前の支払が実施できた。【北部方面隊】

4 広 報

(1) 部隊の活動状況

陸幕統制の下、師団等との密接な連携を保持し、上下級部隊間一貫した広報活動により、支援群派遣準備における方面隊の真摯な姿を情報発信し、隊員・隊員家族及び地域住民からの理解と協力を獲得して、派遣準備業務の円滑な遂行に努めた。【各方面隊】

(2) 教訓・提言等



5 情報

(1) 部隊の活動状況

ア 情報業務の運営

(ア) 全 般

陸幕、方面隊、師団及び過去に派遣された支援群等と連携し、特に現地の情報を重視した情報収集を行うとともに、訓練等各種機会を通じてこれを隊員一人一人まで徹底することに着意した情報の提供を実施して、現地での任務に堪えうる部隊の練成に資するとともに、準備の万全を整えた。【各 群】

(イ) 情報資料の収集

a 現地の治安情勢等の情報収集に際し、特にサマールワ現地を重視した収集活動を行い、現地からの情報資料を漏れなく収集するとともに、逐次帰国する派遣部隊と密接に連携しつつ、各種教訓資料等の収集を行った。この際、上級司令部との密接な連携を維持し、逐次変化する情勢への対応に留意するとともに、アメリカ軍等の戦訓等の収集にも着意し、準備訓練へ寄与した。【各 群】

b 準備訓練に資する情報資料

現地で安全かつ確実に任務を遂行するために必要な能力を付与するためにはいかなる訓練を積んでおく必要があるかを焦点として、各種の脅威情報、現地情勢等について情報資料の収集整理に努めた。【各 群】

c 現地環境に適応するための情報資料

本オペレーションは、日本とは異なる文化、環境での作戦となるため、これに適切に対応し得る情報資料、すなわちイスラム文化、アラブ特にイラクの特性、サマールワ周辺の地誌的特性等の情報収集を行った。【各 群】

d 隊員の士気を高揚し健全性を保持させるための情報資料

任務の特質上、崇高な使命感に裏付けされた高い士気が求められるため、上級司令部と連携して各種報道資料、世論調査等の動向の把握に努めるとともに、隊員保全と表裏一体の情報活動を行い隊員の健全性保持に努めた。

【各 群】

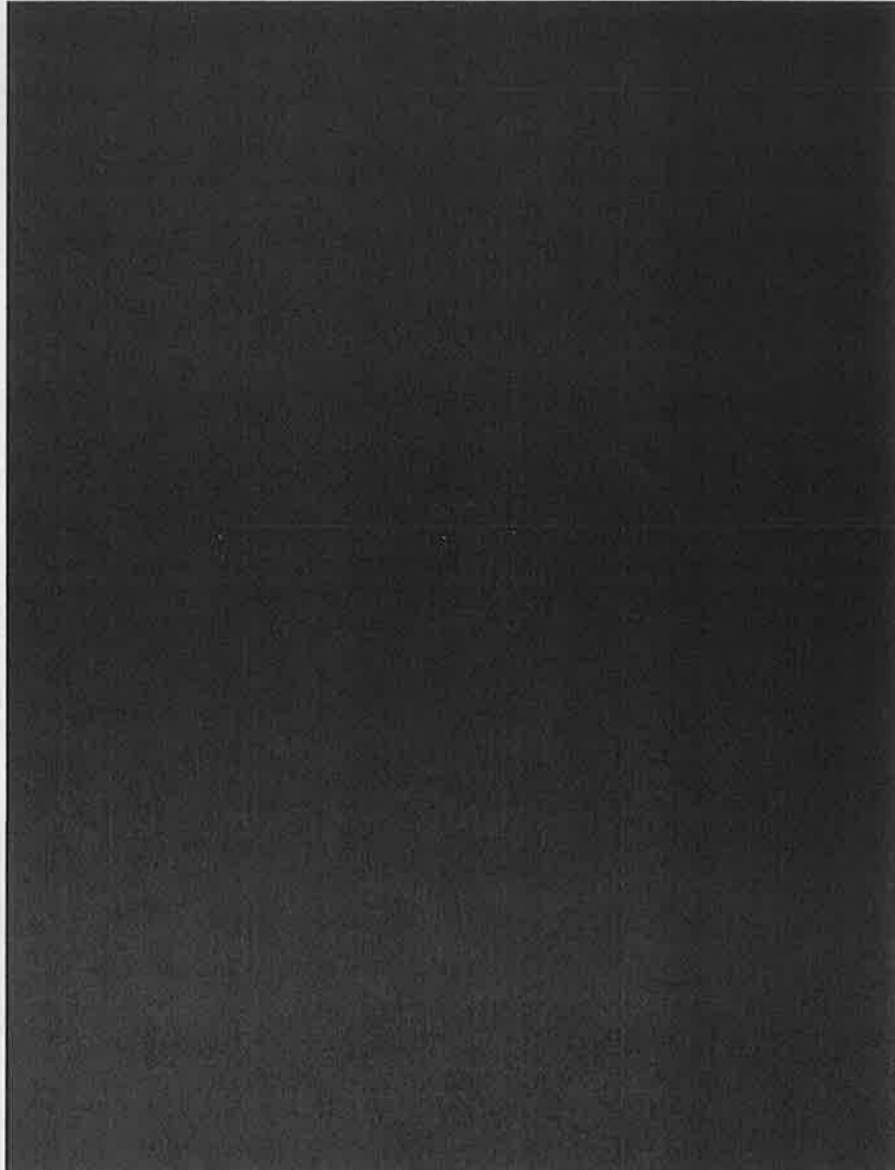
(ウ) 情報資料の処理

準備訓練への教訓事項の反映及び円滑な派遣準備に資する情報の提供を可

第2編 イラク人道復興支援

能にするよう、また、各部隊が使用容易なよう努めて視覚的かつ簡潔に処理するよう着意した。【各 群】

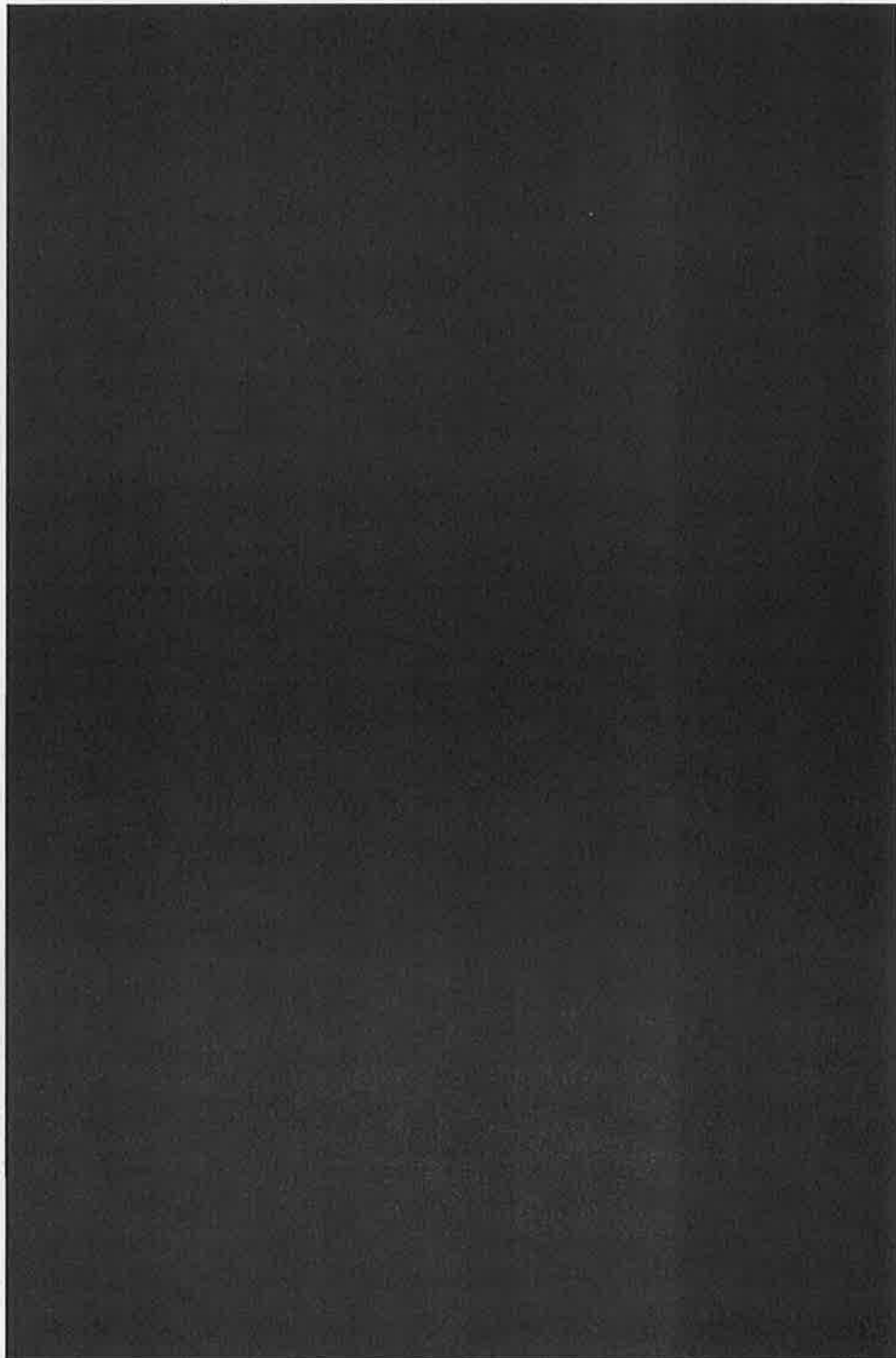
(エ) 情報の使用



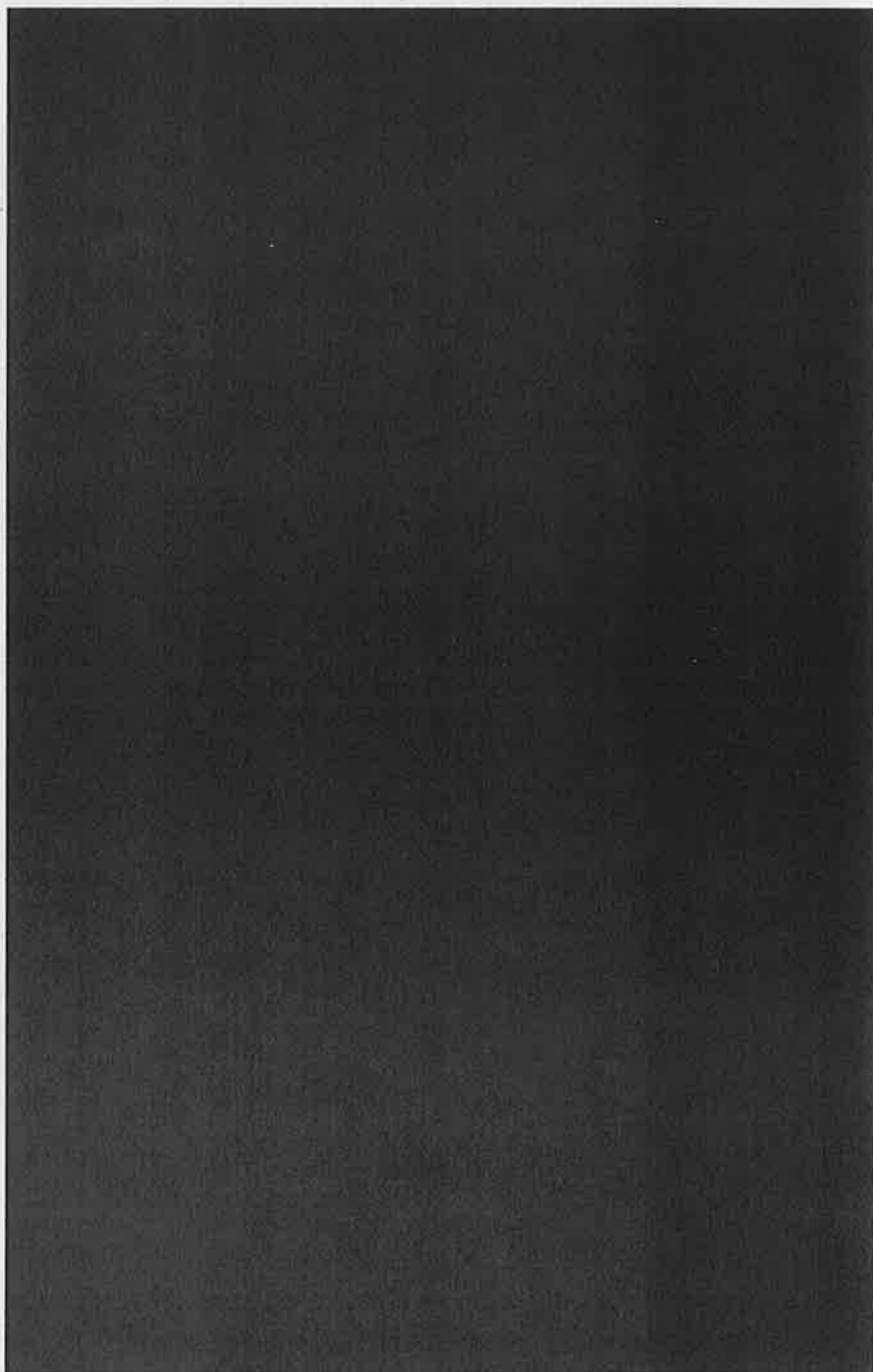
イ 情報に関する訓練

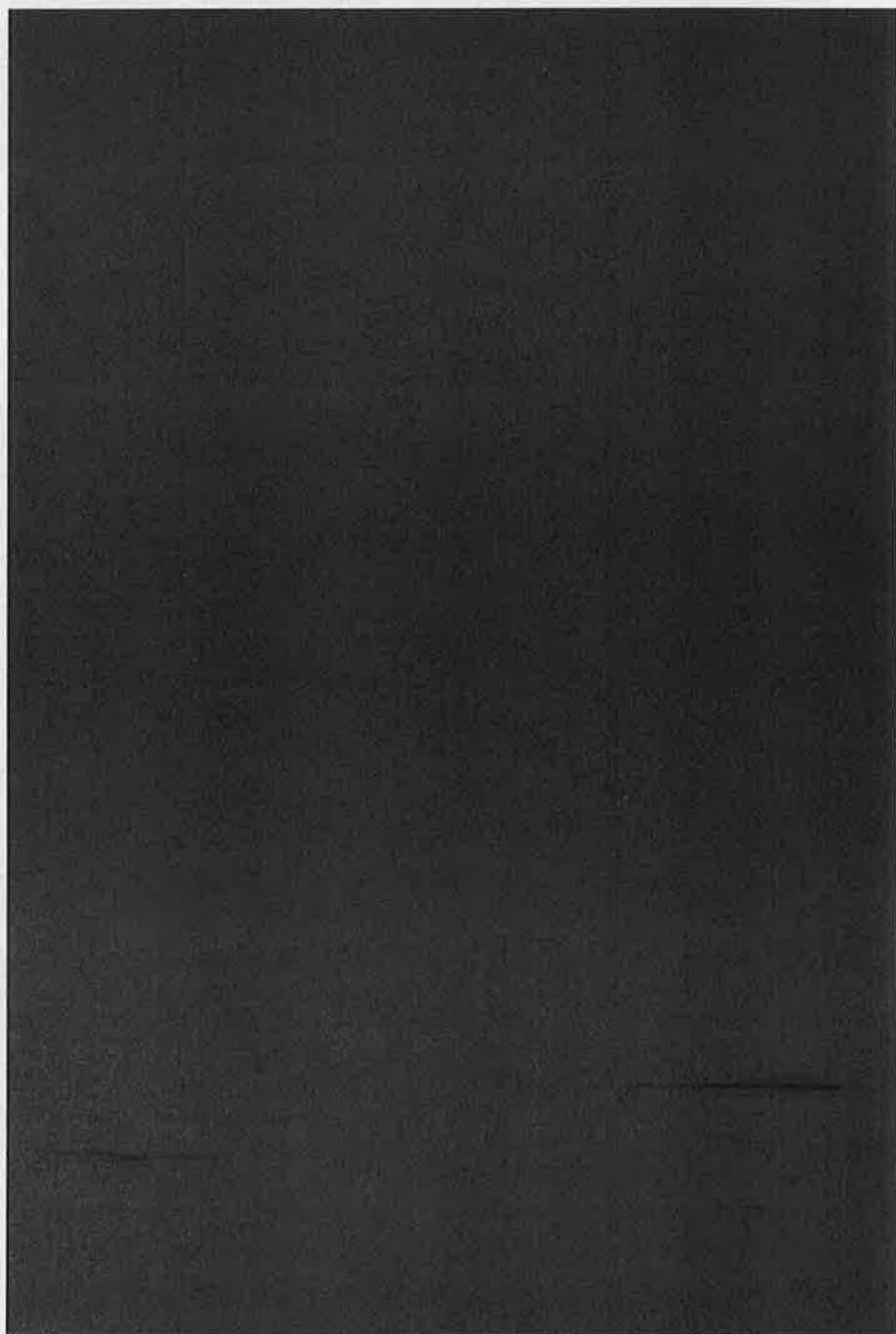
(ア) 全 般





第2編 イラク人道復興支援





第2編 イラク人道復興支援

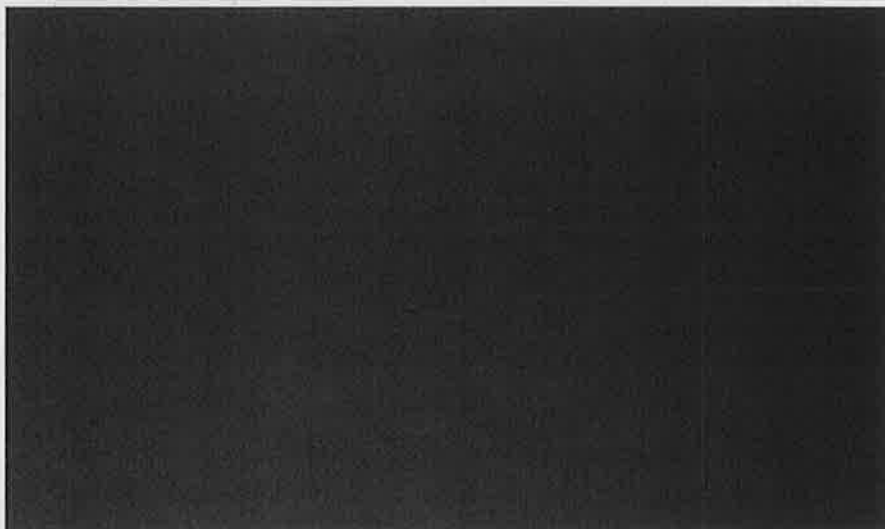


ウ 保 全

(ア) 全 般

準備隊の編成当初から師団・旅団司令部と連携して、秘密保全関係規則・通達類を準拠とするとともに過去に派遣された支援群等の保全規則を参考にして準備隊の保全業務要領を作成・発簡し、関係職員による合規適正な秘密保全業務の基盤を確立した 【各 群】

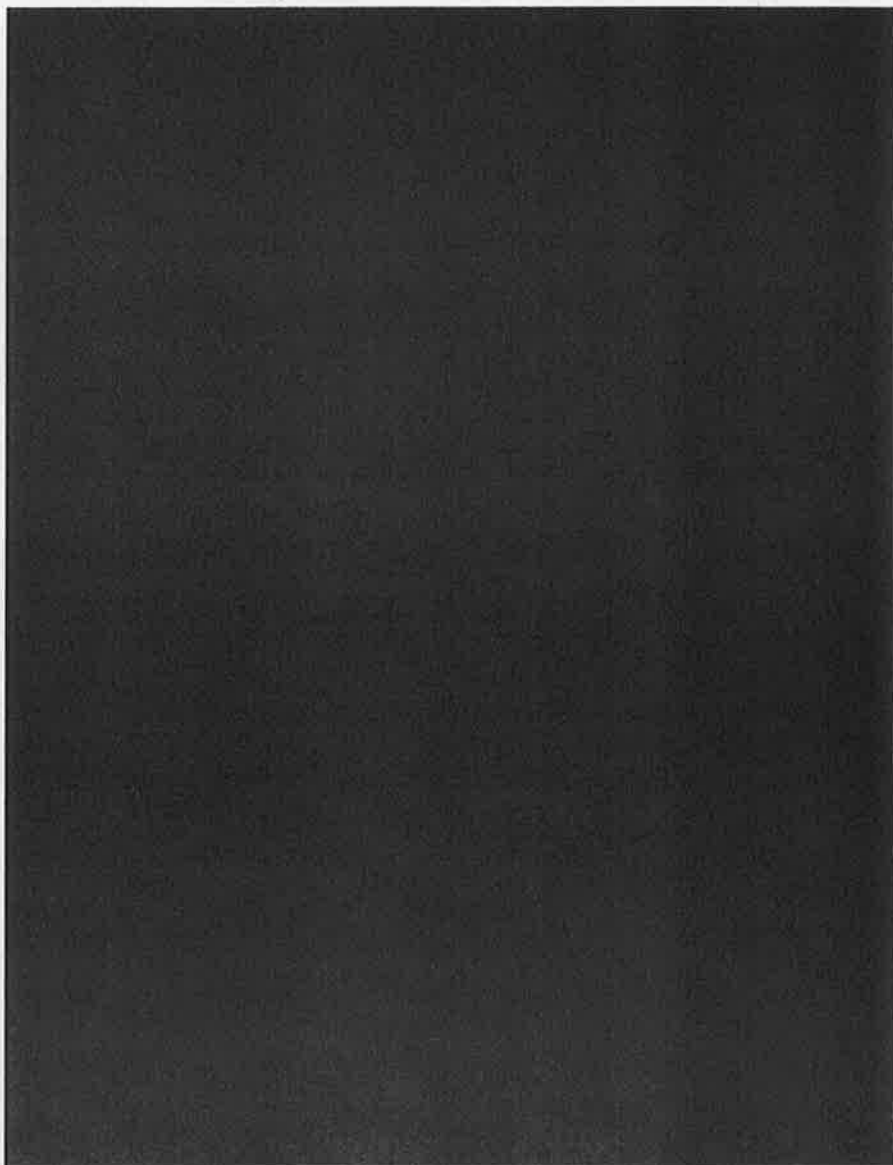
(イ) 全般関連事項



(イ) 保全教育



第2章 派遣準備



工 地 誌
(ア) 地 図



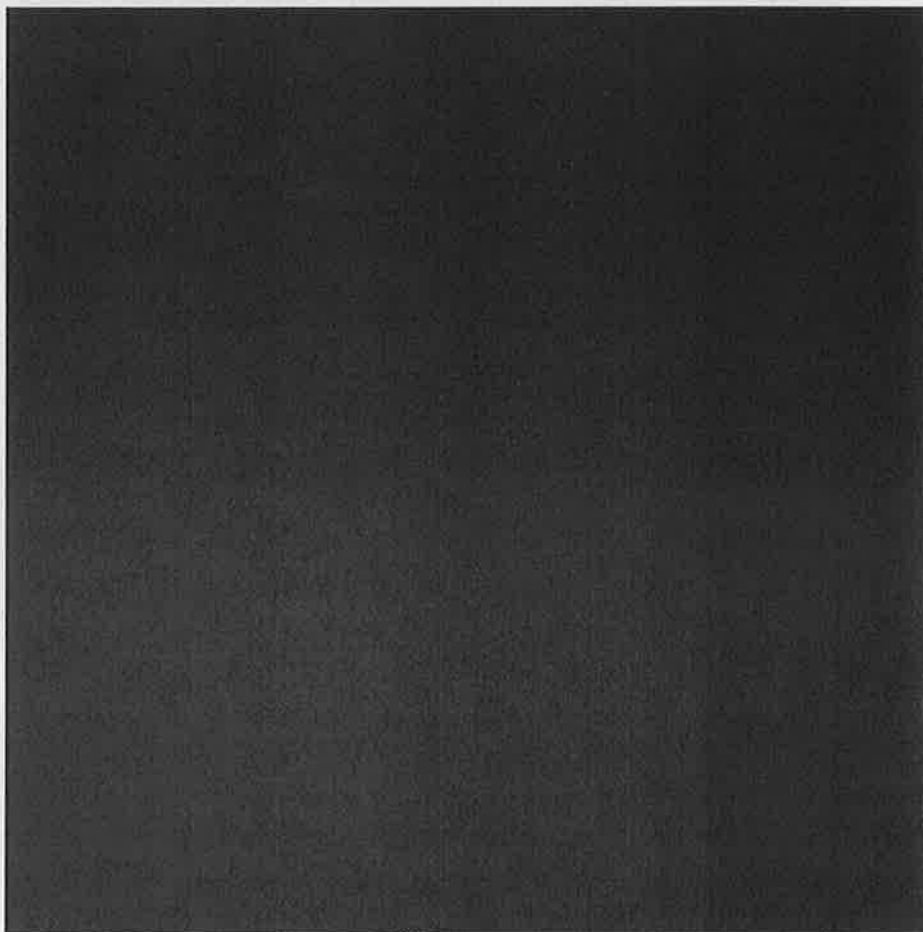
第2編 イラク人道復興支援



(イ) 気 象

陸幕調査部作成の「イラク関連資料集」を活用し、酷暑・砂塵及び雨期等が部隊活動に及ぼす影響等を把握した。【各 群】

オ 語 学



(2) 教訓・提言等

ア 情報組織の構成

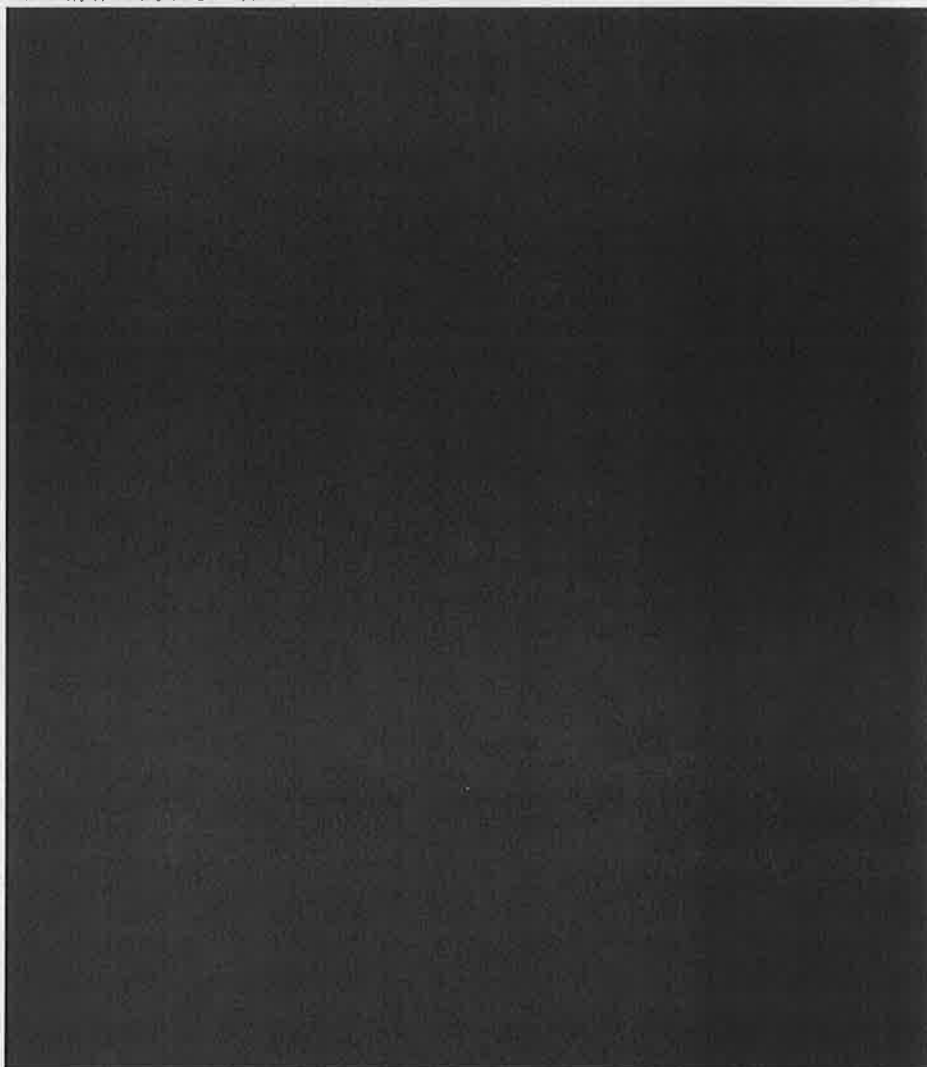
(ア) 派遣要員選考の段階での隊員の適格性の確認

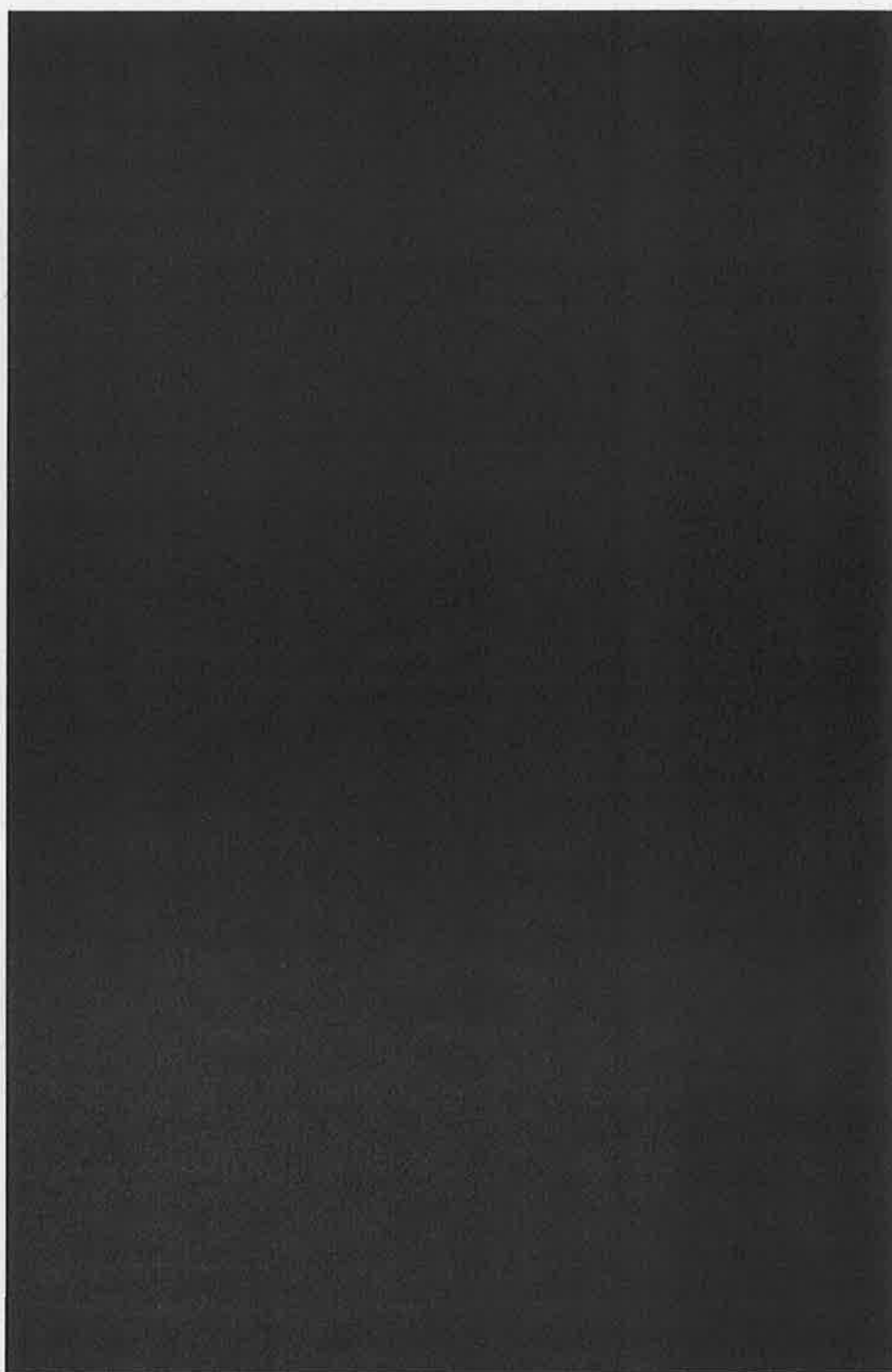
選考された人員の中に適格性を持っていない隊員がおり、原隊への申請依頼を群で処置しなければならなかった。適格性の調査には時間を要するので派遣要員選考の段階で各部隊が処置するよう上級部隊が確認・指導する必要がある。【1次群】

第2編 イラク人道復興支援



イ 情報に関する訓練





第2編 イラク人道復興支援

ウ 情報作戦（I O : Information Operations）に関する事項

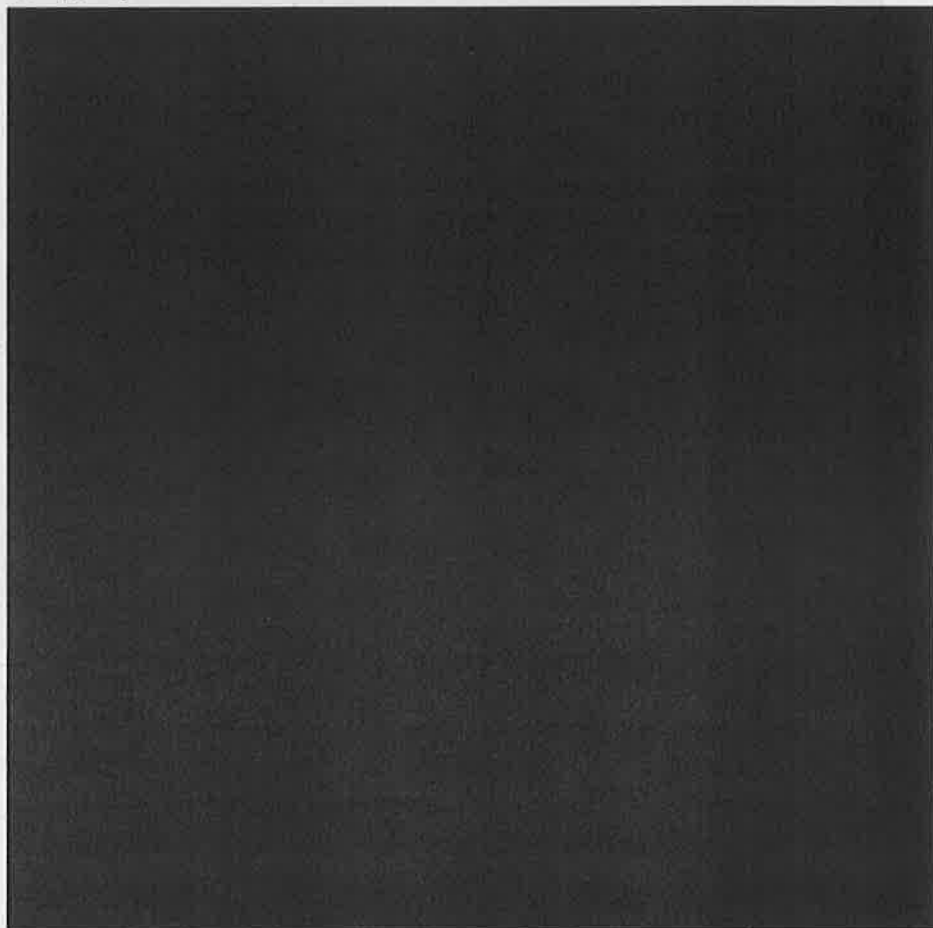
エ 保全

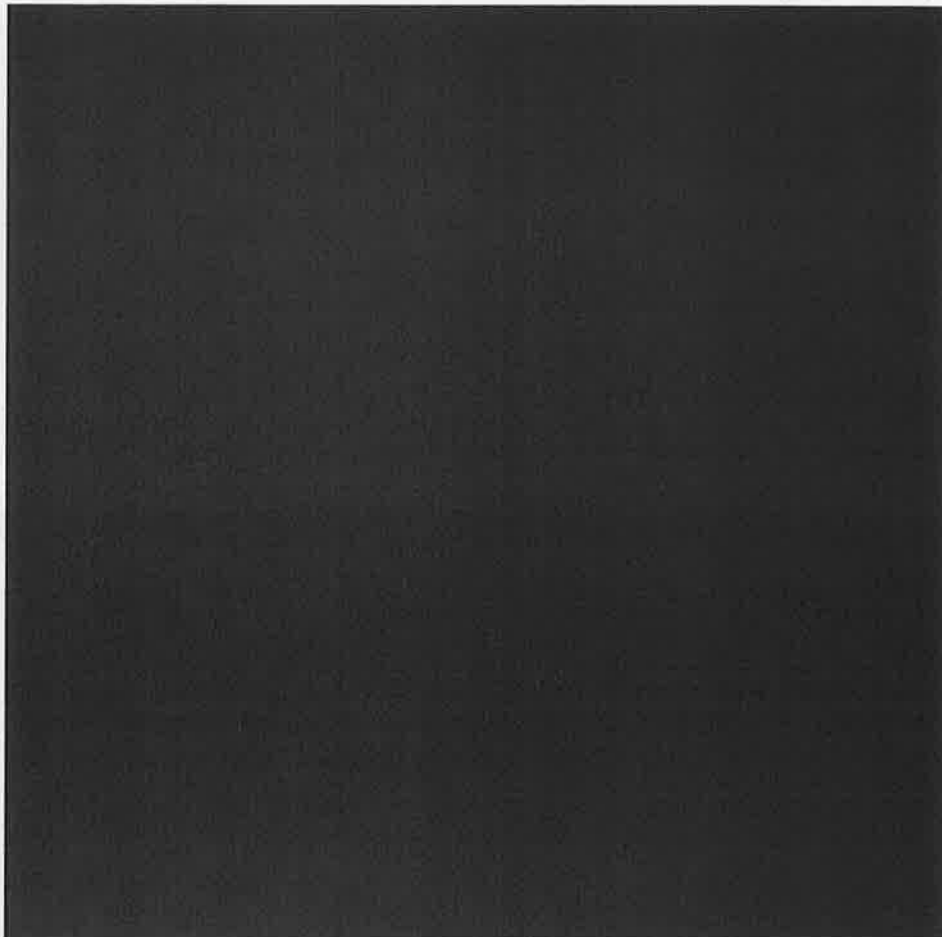


オ 地 誌

1/1万の地図は車内で使用するには大きすぎるため、1/2.5万の衛星地図があれば車内における地図の使用が容易である。【1次群】

カ 語 学





6 兵 站

(1) 部隊の活動状況

ア 全 般

方面隊、師団、補給処等の上級部隊の支援を受けて、準備要員の所属する部隊に対する個人装備火器等、準備訓練時に使用する軽装甲機動車、装輪装甲車等の所要の装備品等の管理換えを受け、準備訓練の整齊円滑な実施に寄与するとともに、出陣のための諸準備を実施した。【各 群】

イ 教育訓練

(ア) 準備訓練に必要な装備品等の使用に当たっては、上級部隊、各補給処及び各部隊の支援を受け、教育訓練の整齊円滑な実施に寄与できた。【各 群】

(イ) 第1期準備訓練においては、第6師団司令部及び神町駐屯地各部隊の支援を受け、神町駐屯地以外の準備要員の宿泊施設、武器保管場所等を準備した。
【4次群】

(ウ) 第2期準備訓練以降は、訓練に必要な各種消耗品等を準備するとともに王

第2章 派遣準備

城寺原演習場の模擬宿営地において給食、入浴、補給整備業務を本部管理中隊を中心として実施し、練度の向上を図った。また、この間、第6後方支援連隊を核とした管理支援隊等から、射撃時における弾薬交付業務、糧食等の運搬、ゴミ回収等の各種支援を受けた。【4次群】

(エ) ミニサマータにおける本部管理中隊の準備訓練を兵站支援の主体とし、宿営地及び装備品等の維持運営を実施した。この際、演習場の制約上、展開・運営できない兵站施設等については、大村駐屯地業務隊等の支援を受け、その機能を補完した。【7次群】

(オ) 相馬原駐屯地及び同演習場における訓練においては、平均600人の宿泊調整（廠舎500名、その他100名）、給食、給油、駐車、その他の調整を実施し、7か月にわたる準備訓練の基盤を確立した。【10次群】

(カ) 集中訓練、FTC訓練、総合訓練においては、東富士演習場及び北富士演習場等に野外兵站施設を開設するとともに、富士地区所在部隊等と調整を密にして補給・整備等を実施し、訓練の整齊円滑な実施に寄与した。

【10次群】

(キ) 準備訓練間を通じて、旅団司令部、旅団の編成する訓練支援隊及び管理支援隊との調整を密にして、効果的な兵站支援の実施を図った。【10次群】

ウ 装備品等の準備

(ア) 準備訓練に必要な装備品等の準備

c 限られた経費を有効に活用し、最大限の訓練効果を上げることを主眼として、調達すること以外に所望の効果が得られないものに限定して、調達（レンタル含む）し、必要な物品等を取得した。【7次群】

d 管理換えの準備として、出国予定の約3ヶ月前に補給処において調整会議を実施し、認識の統一を図るとともに今後の準備担任区分及び要領について確立した。また、師団担当者に調整内容に基づき管理換え元部隊に対する事前教育を依頼して準備に万全を期した。【8次群】

e 師団総合訓練の終了直後に管理換え時期を設定し、北熊本駐屯地に部隊を集結させ1箇所で集中して実施することにより、掌握を確実にするとともに効率的に短時間で管理換えを完了させた。【8次群】

第2編 イラク人道復興支援

- f 補給処、方面、師団及び準備隊の四者による調整会議を実施し、今後の準備担任、要領及び時期等についての認識の統一を図ることにより装備品等の円滑な管理換えを実施できた。【9次群】

の装備品・訓練用資器材について、西部方面隊、第1師団等から管理換えを受け、支援群の準備訓練実施の基盤整備を実施した。この際、第12旅団司令部付隊を窓口として管理換え受けを実施し、物品管理の一元化に努めるとともに、隷下部隊等に対する係累の除去を図った。

【10次群】

- h その他、準備訓練に必要な装備品等について、各種計画に基づき、管理換え、差し出し調整、取得、借用等を先行的に実施した。特に、個人装備火器については、当初から段階的な訓練を実施する必要があること、被服・装具等については、部隊で保有形態が異なること、寒冷地での準備訓練の必要性があることから、優先してこれらを実施した。【10次群】
- (イ) 携行装備品等の準備
- a 個人装備火器及びその他の個人携行物品は、上級部隊、補給統制本部及び各補給処等からの管理換え（受け）により取得した。【各 群】
- b 被服等の個人装具類の取得については、第6師団司令部、東北方面総監部、東北補給処等と密接に連携を図り、準備要員に対する個人装具を8月～10月にかけて計画的に補給受けを実施し、準備要員に対して交付を実施した。【4次群】
- c 個人携行火器については原則、派遣前部隊で個人が使用していた銃を携行させるよう上級部隊と調整し、練成成果を直接反映できる態勢を確保した。部隊携行火器については、上級部隊と調整し所要数を確保した。【7次群】
- d 防護マスク及び防護衣については、保有していない部隊から派遣される隊員についても早期から上級部隊等と調整し準備した。【7次群】
- e 個人の体型等に左右される被服等については準備訓練の間隙を最大限活用し、「号文調整」を実施するとともに、出国のための個人準備を考慮し、上級部隊と調整し、出国の約1ヶ月前に補給した。【7次群】
- f 個人交付の被服については、師団を通じ補給処との調整を早期に実施し、号文調査・検眼を出国予定時期の約5か月前に実施することにより、確実な取得ができた。【8次群】
- g 個人装備火器については、準備訓練間に決定した個人携行区分に基づき、練成訓練の成果を直接隊員に反映できるように、差し出し等について上級部隊と調整した。【10次群】
- h 上級部隊から配分受けした経費を効率的に運用するため「真に必要で代替処置が出来ないもの」に限定し調達をするとともに、訓練間に明らかになった教訓事項を反映でき得るよう所要の装備品等の携行を上級部隊に要望し携行した。【7次群】

(ウ) 検数・検量

- a 予備要員を主体に検数作業支援チームを編成して検数を実施したが、検数が輸送業務の一環であること及び帰国時の検数業務を考慮した場合、正要員を主体に、特に輸送小隊の輸送業務陸曹を核として編成して検数準備を進めるべきであった。【3次群】
- b 2004年10月26日～29日、神町駐屯地において、各波区分ごと、中央輸送業務隊が実施する検数・検量等の通関業務を受検した。この際、派遣予備要員を中心として検数支援隊を編成し、個人コンテナリスト・部隊携行品リスト・輸送品目表の作成、中央輸送業務隊との調整業務を実施して、検量・検数の万全な態勢で受検することができた。また、管理換えした装備品等の検量・検数は、東北補給処の支援を受けた。【4次群】
- c 出国日程の不確定な中、状況の変化に対応できるように先行的な資器材の取得リストの作成等、受検態勢の確立を図った。【10次群】
- d 部隊の識別、個人の掌握を容易にするため、個人及び部隊携行品については番号管理、色管理を推奨し、業務の効率化を図った。また、携行品の準備等においては、写真付きのチェックリストを作成し、有効的に活用した。【10次群】
- e 個人コンテナ、部隊コンテナの検数は、準備訓練、出国前教育の日程と調整し、相馬原駐屯地で実施するとともに、防弾チョッキ等の補給処の後送についても、同地で梱包等を実施し、業務の一元化、効率化に努めた。【10次群】

(エ) 出国に伴う装備品等の管理換え



エ 輸送

(ア) 隊員輸送

陸上幕僚監部及び各方面総監部等と調整し、第1波～第3波に区分し、民間航空機及び航空自衛隊政府専用機による輸送を準備した。【各 群】

(イ) 隊貨輸送

- a 派遣隊員の個人コンテナ（男子隊員×3個、女子隊員×4個）及び部隊携行品は、真駒内駐屯地において中央輸送業務隊等の支援のもと、各波区分ごと検数・検量等通関業務を行い、民間航空機及び役務車両による輸送を準備した。【2次群】
- b 群隷下の各中隊に共通する装備品等は、準備訓練を実施する主体となる大野原演習場近傍でかつ核となる部隊である第16普通科連隊に管理換え

第2編 イラク人道復興支援

し、移動（輸送）に関する係累の軽減に最大限考慮した。【7次群】

（2）教訓・提言等

ア 編 成



イ 教育訓練



ウ 装備品の準備



エ 輸 送

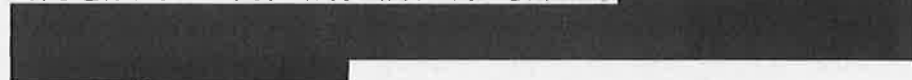
第1波の使用航空機機種が決まり遅く、各波毎に輸送する装備品及び個人コンテナの積載受け準備のための表示が事前にできなかった。このため、確定した人員の表示と未確定人員の表示要領を、管理換え時に補給処と、個人コンテナ積載時に中央輸送業務課と調整して、齟齬なく輸送を実施した。【8次群】

7 教育訓練

（1）部隊の活動状況

ア 全 般

イラク人道復興支援活動の派遣要員に対し、所要の教育訓練を実施し、派遣部隊の任務遂行に必要な知識・技能を習得させるとともに、派遣部隊として任務を遂行する上で必要な練度の維持・向上を図った。



イ 基本教育



ウ 各個訓練

